

STIHL

STIHL MS 201 C-M

取扱説明書



目次

はじめに	2	整備と修理	45
安全に関する重要事項	3	廃棄	45
反発力	8	EC 適合証明書	45
作業方法	10		
カッティング アタッチメント	18		
バーとチェーンの取り付け	19		
ソーチェーンの張り方 (サイドチェーン テンション)	20		
チェーンの張り具合の点検	21		
燃料	21		
給油	22		
チェーン オイル	24		
チェーン オイルの給油	24		
チェーン オイルの吐出点検	25		
チェーン ブレーキ	25		
冬季作業	26		
エンジンの始動と停止	26		
作業中の注意事項	30		
オイル量の調節	31		
ガイド バーの保守	31		
エアフィルター の掃除	32		
M-Tronic	32		
スパーク プラグ	33		
機械の保管	34		
チェーン スプロケットの点検	35		
ソーチェーンの整備と目立て	35		
整備表	39		
磨耗の低減と損傷の回避	41		
主要構成部品	42		
技術仕様	43		
スペア パーツのご注文	44		

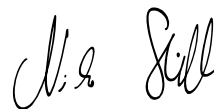
お客様各位

この度は STIHL 社の製品をお買上げいただきまして誠に有難うございます。

この製品は、最新の製造技術と入念な品質保証処置を施して製造されました。私共は、お客様がこの製品を支障なく使用され、その性能に満足していただくために最善の努力を尽くす所存でおります。

本製品に関してご不明な点がありましたら、お買上げの販売店または当社カスタマーサービスにお問い合わせください。

敬具



Dr. Nikolas Stihl

STIHL

この取扱説明書は、著作権によって保護されています。全権留保。特に複製、翻訳および電子システムを使用した処理に対して保護されています。

はじめに

この取扱説明書では STIHL チェンソーは機械と呼ばれる事もあります。

シンボルマークについて

機械に表示されているシンボルマークは、この取扱説明書で説明されています。

機械および装置のバージョンによっては、次のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料



チェンオイル用タンク、チェンオイル



チェンブレーキの作動および解除



コースティングブレーキ



チェン移動方向



E マチック、チェンオイル流量調整



ソーチェンの張り



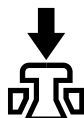
インテークエアークラフ:
フル:冬季作業



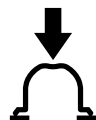
インテークエアークラフ:
フル:夏季作業



ハンドルヒーティング



デコンプレッションバルブの作動



パージャーパーンプの作動

段落の前に付いたシンボルや数字



警告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。



注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

安全に関する重要事項



チェンの回転が非常に速く、カッターが非常に鋭利であるため、チェンソーで作業を行うときは、人身事故の危険を低減するために特別な安全措置が必要です。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解し、必要なときに見られるよう安全な場所に確実に保管してください。取扱説明書を順守しないと生命を脅かすようなケガを負いやすくなります。

一般的な注意事項

現地の安全規制、基準、条例を遵守してください。

騒音を発するパワーツールの使用が、国や地域の規則によって規制されている場合があります。

この機械で初めて仕事をする人は：STIHL サービス店または経験豊富なユーザーに機械の操作方法を教えてください。その専門的な研修に参加してください。

未成年者はチェンソーを使用しないでください。

作業場所に見物人、特に子供や動物を近づけないでください。

他者およびその所有物に対して生じた事故または危険に関しては、その一切の責任をユーザーが負います。

チェンソーを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書を一緒に手渡してください。本機の使用が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認します。

チェンソーで作業する人は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。激しい労働に耐えられない体調の方は、チェンソーの使用前にかかりつけの医師に相談してください。

視界を妨げ、動作や判断を鈍らせるようなアルコールや薬品などを服用した状態では、チェンソーを使用しないでください。

事故やケガを避けるために、天候が悪い場合（雨、雪、氷、風）は作業を延期してください。

ペースメーカーを付けている方のみ該当する注意点：チェンソーのイグニッションシステムは、微量の電磁界を発生します。この電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを軽減するため、ペースメーカーを装着された方は、パワーツールの使用前に掛かりつけの医師またはペースメーカーの製造元に、お問い合わせください。

用途

この機械は樹木や木製品の切断にのみ使用してください。

その他の用途のために機械を使用しないでください。事故の危険があります！

いかなる方法でも本機を改造しないでください。人身への傷害の危険性を増加させることがあります。承認されて

いないアタッチメントを使用した際の人的傷害および物的損害に対しては当社は一切保証を行いません。

衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体に合い、身体の動きを制約しない衣服を着用してください。だぶだぶな上着ではなく、**切断防止機能付き**の身体にピッタリした作業衣を着用してください。

枝、やぶ、または機械の可動部品等に引っかかる衣服を身に付けしないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具を身に付けしないでください。長髪は結んでまとめてください（スカーフ、帽子、ヘルメット等に押し込んでください）。



適切な**安全靴** - 切断防止素材が使用され、靴底が滑らず、爪先に鋼板が入った靴 - を履いてください。



警告



目を負傷する危険を低減するために、EN 166 基準に準拠した確実にフィットする保護メガネまたはフェイスシールドを着用してください。保護メガネとフェイスシールドが顔のサイズに合っているか確認してください。

「自分専用」のイヤープロテクター - 例えば防音用耳栓 - を着用してください。

落下物の危険がある場所では、ヘルメットを着用してください。

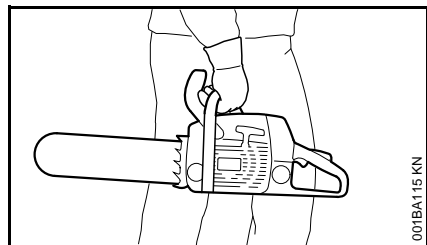


耐性素材(革等)でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、作業者を保護する多様な保護装備を販売しています。

運搬

運搬する前に、たとえ短い距離でも、スイッチをオフにし、チェーンブレーキを掛け、チェンガードを取り付けます。これにより、ソーチェンが予期せずには作動する危険を避けることができます。



いつもチェーンソーはハンドルを持ち、熱くなったマフラーを身体から離し、ガイドバーを後ろに向けて運搬してください。マフラーの表面など、機械の熱くなっている部分に触れないようにしてください - 火傷の恐れがあります！

乗り物で運搬する時：機械が倒れたり、損傷したり、チェンオイルや燃料が流れ出たりしないよう、固定してください。

洗浄

プラスチック製部品は、布で掃除します。強い洗剤はプラスチックを損傷することがあります。

機械から、汚れや泥を取り除いてください - これには、グリース溶剤を使わないでください。

必要に応じて換気スロットを清掃します。

機械の清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強い流水で機械の部品を損傷する恐れがあります。

アクセサリ

当社が本機での使用を承認した、または技術的に同等の、ツール、ガイドバー、チェン、チェン スプロケット、またはアクセサリだけをご使用ください。これに関して不明な点がある場合は、STIHL サービス店へお問い合わせください。高品質ツールおよびアクセサリだけをご使用ください。そうしないと、事故および本機の損傷の恐れがあります。

当社では、STIHL 純正のツール、ガイドバー、チェン、チェン スプロケット、およびアクセサリだけをご使用いただきますようお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

燃料の給油



ガソリンは非常に簡単に引火します - 火気を近づけないでください - 燃料をこぼしたり、喫煙しないでください。

燃料を給油する前にエンジンを停止してください。

エンジンがまだ熱いうちは給油しないでください - 燃料が流れ出て火災になる**ことがあります！**

燃料フィルターキャップは、過剰な圧力が徐々に抜けて、燃料が噴き出さないように、慎重に開けてください。

給油は風通しの良い場所で行ってください。本機に燃料をこぼしたら直ちにふき取ってください。衣服に燃料をこぼさないでください - 汚れた衣服は直ちに替えてください。

機械は標準として、次のフィルターキャップを装備することができます。

バイヨネット式フィルターキャップ (差し込みロック)



バイヨネット式燃料タンクキャップ (差し込みロック) は正しく差し込み、止まるまで回してからバイヨネットを下ろしてください。

正しく締め付けられていない燃料キャップがエンジンの振動によって緩んで燃料が漏れる危険を低減します。



燃料が漏れていないか注意してください！燃料がこぼれたり漏れている場合は、エンジンを始動しないでください - 火傷による命の危険があります！

始動前

チェンが正しく取り付けられ、良好な状態になっているかチェックします (本取扱説明書の関連項目を参照) :

- 燃料システムに漏れがないか点検します。特にタンクキャップ、ホース接続部や手動燃料ポンプ (機械に取り付けられている) などの、目に見える部品を特に注意深く点検します。漏れや損傷がある場合は、エンジンを始動しないでください - 火災の危険性があります。再度使用する前に、チェンソーの修理をサービス店に依頼してください
- チェンブレイキや前ハンドガードが正常に作動するか点検します
- ガイドバーが正しく装着されている
- チェンが適切に張られている
- トリガーおよびトリガーロックアウトがスムーズに作動して、放すとアイドル位置に戻らなければなりません。
- マスターコントロールレバーが、スムーズに STOP、0 または 0 位置に移動できるか。

- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているかチェックします - 緩んでいる場合は火花が発生することがあり、可燃性のガスに引火する可能性があります。
- 操作部や安全装置に改造を加えないでください。
- チェンソーの安全な操作のため、ハンドルはオイルや汚れのない、乾いた清潔な状態を保ちます。
- 十分な燃料とチェンオイルがタンクに充填されていることを確認します。

人身事故の元となりますので、損傷したり、正しく取り付けられていないチェンソーは使用しないでください。

チェンソーの始動

必ず平坦な場所で作業を行ってください。常に安定した足場を確保してください。機械はしっかりと保持します - チェンが床やその他の物体と接触しないようにしてください - 回転するソーチェンのためにケガの危険があります。

チェンソーは一人で操作します。他人が作業区域内に入らないようにしてください。始動時も同様です。

チェンが切り口にあるときは、チェンソーを始動しないでください。

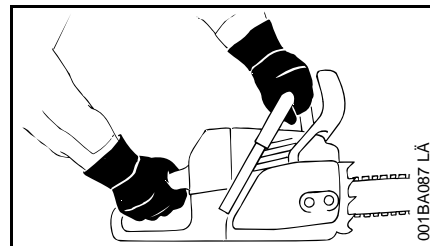
機械の給油位置から最低 3 メートル以上離れ、密閉された場所では絶対にエンジンを始動しないでください。

始動前にチェンブレイキでチェンをロックします。チェンの回転により事故の恐れがあります。

エンジンの落としがけをしないでください - 取扱説明書に従って始動してください。

作業中

足場は常に、しっかりと安全にしてください。剥いだ皮が湿っているときは特に注意してください - 滑る恐れがあります！



必ず両手でしっかりとチェンソーを保持してください。左利きの場合でも右手で後ハンドルを握ります。安全操作のため、ハンドルバーとハンドルをしっかりと握ります。

差し迫った危険や緊急の場合、マスターコントロールレバーかストップスイッチを STOP、0 または 0 に動かして、速やかにエンジンを停止します。

本機を運転させたままで、本機から離れないでください。

滑りやすい表面、水、雪、氷、急な斜面、でこぼこな地面、樹皮を剥がしたばかりの樹木の上では特に注意を払ってください。滑る恐れがあります！

切り株、根っこ、溝に注意します。つまずく恐れがあります！

一人だけで作業しないこと - 事故があった場合に備えて、近くに応急処置の訓練を受けた人がいて声を出せば助けに来られるようにします。切断作業現

場での補助者も保護具（ヘルメット）を着用し、切断された枝が当たらないところまで下がっているようにします。

防音用耳栓を付けている場合、より大きな注意が必要です。危険を告げる声（叫び声、警笛など）が聞こえにくくなるからです。

疲労が蓄積しないように、適切な時期に休息をとってください **事故の危険があります！**

本機の使用時に発生する塵埃（おがくずなど）、気体成分、煙は健康を害する恐れがあります。粉塵が発生するときは、防塵マスクを着用してください。

エンジン運転中：スロットルトリガーを放しても、コースティング効果によりチェンは短時間回転し続けます。

作業中およびチェンソーの近くでの**喫煙は避けてください。火災の危険性があります！**燃料システムから、発火しやすいガソリン蒸気が漏れている恐れがあることに、ご注意ください。

短い間隔で定期的に、および明らかな変化に気付いたときすぐに、ソーチェンを点検します：

- エンジンのスイッチを切り、ソーチェンが静止するまで待ちます
- 状態および接続部がしっかりしていることを確認します
- 目立ての状況を確認します

エンジンの運転中は、ソーチェンに絶対に触れないでください。ソーチェンに物体が挟まった場合、物体を取り除こうとする前に、直ちにエンジンを停止してください - **ケガの危険があります！**

機械をそのままにして離れる場合は、必ずエンジンを停止してください。

ソーチェンを交換するには、エンジンのスイッチを切ります。エンジンが不意に始動すると、**怪我をする危険があります！**

木片、樹皮、乾燥した草木、燃料など燃えやすい素材から排気ガスや加熱されたマフラーを離してください - **火事の危険があります！**触媒コンバータ付きマフラーは特に高温になりがちです。

チェンオイルなしでは作業をはいけません - オイルタンク内のオイル量を注意します。オイルタンクのオイル量が少ないときは直ちに作業を停止し、チェンオイルを補充します - 「チェンオイルの給油」および「チェンの潤滑の点検」も参照してください。

機械に強い衝撃が加わったり落下するなど、所定の負荷を越える異常な負荷がかかった場合は、作業を続ける前に、機械が良好な状態にあることを常に確認してください - 「作業開始前」も参照してください。

給油システムに漏れがないことを確認し、安全装置が正しく機能していることを確認します。機械の動作状態が完全でない限り、絶対に継続して使用しないでください。はつきりしない場合は、サービス店に点検を依頼してください。

正しくアイドルしているか確認して、スロットルトリガーを放したときにソーチェンが動作を停止するようにします。アイドル設定を定期的に点検して、できるときに調整してください。アイドル回転中にソーチェンが動き続ける場合は、STIHL サービス店に機械の修理を依頼してください。



チェンソーはエンジンが始動するとすぐに、有毒な排気を発生します。このガスは、無臭で目に見えないことがあり、未燃焼の炭化水素とベンゼンを含んでいることがあります。室内や換気状態の悪い場所では、絶対に機械を使用しないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

溝、くぼ地、あるいは狭い場所で作業する時には、適切な換気を確保してください - **有毒ガスを呼吸することによる命の危険があります！**

気分が悪くなったり、頭痛、視界が狭くなるなど視力の障害、聴力の障害、めまい、集中力の低下などを感じたら、即座に作業を停止してください。濃度の高い排気ガスを吸い込むことで、これらの症状が現れることがあります - **事故の恐れがあります！**

作業後

エンジン切り、チェンブレーキをかけ、チェンガードを取り付けます。

保管

機械を使用しない時は、他人に危険が及ばないように保管します。不正な使用ができないよう、機械を固定します。

機械を安全な乾燥した部屋に保管してください。

振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろう病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護（暖かい手袋）
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質（症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く）。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ（握む力が強いと血行が低下します）。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状（指のしびれ等）が繰り返し発症する時は、医師による診断をお勧めします。上記のいずれかの症状が現れたら（指が疼くなど）、医師にご相談ください。

整備と修理

修理、清掃または整備作業およびチェンに対して作業を行う前に必ずエンジンを切ります。エンジンが不意に始動すると、**怪我をする危険があります！**

本機は定期的に整備する必要があります。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業は、販売店に依頼してください。

当社では、整備や修理を STIHL 認定サービス店だけに依頼されることをお勧めします。STIHL 販売店では定期的にトレーニングを受け、適切な技術情報の提供を受けています。

高品質のスベアパーツのみを使用します。そうしないと、事故および本機の損傷の恐れがあります。これに関して不明な点がある場合は、STIHL サービス店へお問い合わせください。

いかなる方法でも本機を改造しないでください。人身への傷害の危険性を増加させることがあります - **事故の危険があります！**

スパーク プラグ ターミナルを取り外したり、スパーク プラグを緩めたまま、スターターでエンジンを始動すると、シリンダー外部でイグニッションスパークが生じて**火災の危険**があるので、その前にマスター コントロール レベルを **STOP**、0 または \odot に移動してください。

火気の近くで調整したり保管しないでください - 燃料を搭載していますので、**火災の恐れ**があります。

燃料キャップがしっかり閉まっていることを、定期的に点検してください。

欠陥のない、当社が承認したスパークプラグのみを使用します - 「技術仕様」を参照してください。

イグニッション ケーブルに異常がないこと（絶縁状態、接続の確実性）を確認してください。

マフラーに問題が無いことを確認してください。

破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま、本機を使用しないでください。**火災の恐れや聴力への害があります！**

絶対に加熱されたマフラーに触れないでください - **火傷の危険があります！**

防振装置の状態は振動動作に影響します - 防振装置を定期的に点検してください。

チェン キャッチャーを点検してください。破損している場合は交換します。

エンジンを停止します

- チェンの張りの点検
- チェンの張りの締め直し
- チェンの交換
- 不具合の修正

目立てに関する注意事項を守ってください。安全にかつ正しく取り扱うため、チェンとガイドバーを完全な状態に保持します。正しく目立てをして、張りを調整し、十分に潤滑する必要があります。

チェン、ガイドバー、チェンスプロケットを適切な時期に交換します。

クラッチ ドラムの動作状態が完全であることを定期的に確認してください。

燃料とチェンオイルを指定された容器でのみ保存し、正しくラベル付けします。光および日光から保護された、乾燥した、涼しい、安全な場所に保管します。

チェン ブレーキに不具合が発生した場合、機械を即座に停止します。**ケガの危険があります！** STIHL サービス店にお問い合わせください - 不具合が改善されるまで、機械を使用しないでください。「チェン ブレーキ」の項を参照してください。

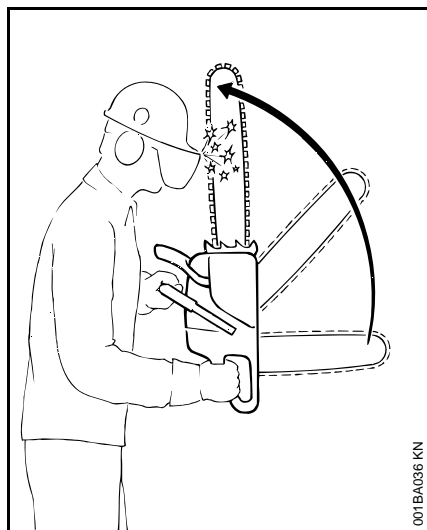
反発力

最も一般的な反発力は：キックバック、プッシュバック、およびプルインです。

キックバックによる危険

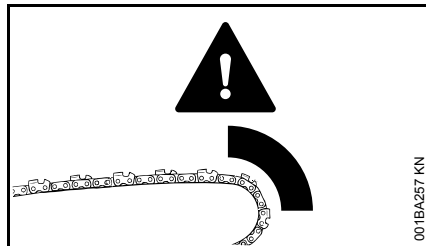


キックバックによって重度の外傷を受ける場合があります。



キックバックとは、次のような場合にチェーンソーが、突然コントロールできない状態で作業者に向かって、跳ね返ってくることを言います。

次のような場合にキックバックが発生しやすくなります。



- ガイドバーの先端上部 1/4 の部分で、不意に木あるいは何らかの固い物体に触れた場合 - 例えば切断中、他の木に不意に触れた場合など
- 切断中にチェーンが、ガイドバーの先端部分で切り口にわずかに挟まれた場合

クイックストップチェーンブレーキ：

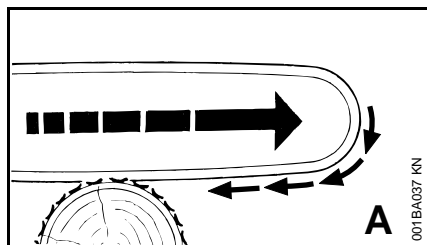
一定の状況下で、ケガの危険を低減します - キックバック自体を避けることはできません。ブレーキが作動すると、ブレーキはソーチェーンを瞬時に停止させます - この取扱説明書の「チェーンブレーキ」の章を参照してください。

キックバックの危険の低減

- 落ち着いて、入念に作業します
- チェンソーを両手でしっかり持ち、グリップを確実に握ります
- 常に最大出力で切断します
- ガイドバーの先端の位置に、いつも注意を払うようにします

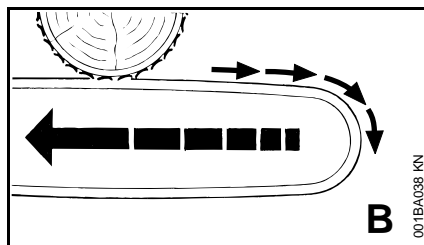
- バーの先端で切らないでください
- 細くて固い枝、低木群、下生えは特に注意してください。チェーンに絡むことがあります
- 決して一度に数本もの枝を切らないでください
- 前に倒しすぎないでください
- 肩の高さより上にあるものを、切断しないでください
- 途中まで切れている木を再度切るときは、十分注意してガイドバーを切り口に入れてください
- 突っ込み切り作業は、慣れていない人には適していません
- 木々の移動や外部の力によって、切断部分が閉じてチェーンが挟まることがあるので、注意してください
- 正しく目立てされ、正しく張られたチェーンでのみ作業します - デプス量が大きすぎないように注意してください
- キックバックを低減するソーチェーンや先端の径が小さいガイドバーを使用してください

プルイン (A)



上から下への玉切り時などの切断中に、チェンのガイドバーの下部が切り口に挟まれたり、木々の異物に当たった場合にチェンソーが木材の方に向かって突然前方に引かれたりすることがあります。これを避けるため、バンパースパイクを木にしっかり当ててください。

プッシュバック (B)



下から上への玉切り時などの切断中に、チェンのガイドバーの上部が切り口に挟まれたり、木々の異物に当たった場合にチェンソーが作業者の方に向かって突然戻ってくる場合があります。これを避けるため、次のようにします。

- ガイドバー上部が挟まらないように注意します
- 切り口の中でガイドバーをねじらないでください

次の場合には細心の注意を払ってください

- 垂れ下がった枝
- 他の木々の間で張力がかかっている、突然倒れてくる可能性のある幹
- 防風林での作業

これらの場合、チェンソーを使用せずに、滑車装置、ケーブルウインチ、牽引装置などを使用してください。

周囲に倒れ、切り込まれたままの幹を引き抜きます。できる限り広い空間で作業してください。

枯れ木(乾燥したり、朽ち果てたり、腐食している樹木)の切断は非常に危険です。危険を察知することは極端に難しく、回避も困難です。ウインチや牽引装置を使用して作業します。

道路、線路、電線などの近くで切断作業をする場合、特に注意して作業してください。必要に応じて、警察、電力会社、鉄道会社に通知してください。

作業方法

すべての関連作業（突っ込み切り、枝払いなど）を含む、切断および伐採作業は、特別に教育を受けトレーニングを受けた作業者のみが行うことができます。チェーンソーを使い慣れていない作業者はこのような作業をしてはいけません。事故の危険性が増します！

伐採作業を行う際は、伐採技術に関する国別の法律を遵守する必要があります。

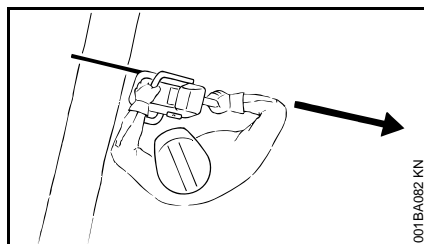
切断作業

始動ポジションで作業しないでください。このポジションでは、エンジンの回転数を調整できません。

日中で十分な視界のある場所で、冷静かつ思慮深く作業してください。他の人に危険が及ばないように確認します。常に注意してください。

初めてのユーザーには、木挽き台で丸太を切断する練習を推奨します - 「小さな丸太の切断」を参照してください。

できる限り短いガイドバーを使用します：チェーン、ガイドバーおよびチェーンスプロケットが正しく組み合わされ、お使いのチェーンソーに適合している必要があります。



チェーンソーを、身体が**カッティングアタッチメントに触れない位置**に置いてください。

チェーンソーを切り口から引き抜くときは、常にチェーンを動かした状態で行ってください。

チェーンソーは切断にのみ使用してください。枝、根や他の物を持ち上げたり、掘り起こすようには設計されていません。

吊り下がっている枝を、下側から切断しないでください。

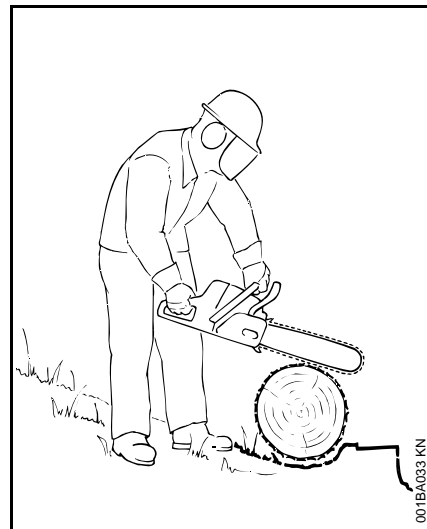
低木や若木の場合は、注意してください。ソーチェーンによって、枝が進行方向に飛んでくる場合があります。

ケガの危険を低減するため、割れた木を切断するときは特に注意してください。破片が飛んできてケガをする危険があります。

チェーンソーが異物に触れないように注意してください：石やクギなどが飛び散ったり、ソーチェーンを損傷する恐れがあります。チェーンソーが不意にキックバックすることがあります - **事故を起こす危険があります。**

特定の状況下では、回転しているチェーンが石や他の硬い物体に接触すると、火花が発生し、燃えやすい物質に引火することがあります。特に高温で乾燥した状況下では、乾燥した植物や雑木も燃えやすい物質に含まれます。火災

の危険がある場合、燃えやすい物質、乾燥した植物や雑木の近くでチェーンソーを使用しないでください。潜在的な火災の危険性についての情報を、地域の森林資源管理局に必ず問い合わせてください。



斜面では、幹の山側に立ちます。切り落とした幹が転がることに注意してください。

高所で作業する場合は次の事項に留意してください：

- 常にリフトバケットから作業します
- はしごや枝に乗って作業しないでください
- 足場の不安定な場所で作業しないでください
- 肩の高さより上にあるものを、切断しないでください。
- チェーンソーは絶対に片手で操作しないでください

切断開始時は、チェーンソーをフルスロットルにして切り込みを入れ、バンパースパイクを木にできるだけしっかりとあてがい、それから切断を続けます。

チェーンソーによって前方に引き込まれて、バランスを失なうことがありますので、バンパースパイク無しで作業しないでください。樹木や枝に対して、バンパースパイクを常にしっかり支持してください。

最後の切断部分まで達すると、チェーンソーは切り口で支持されなくなることに、留意してください。**制御できなくなるように、本機の全重量を保持する必要があります。**

小さな丸太の切断：

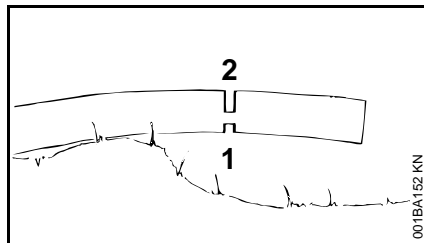
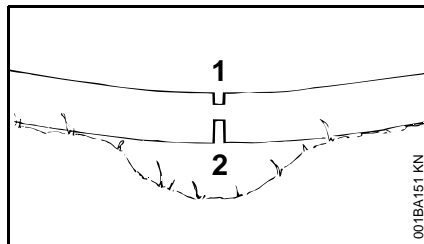
- 頑強で安定したサポートとして 木びき台を使用します。
- 木を脚や足で抑えないでください。
- 他人に木を保持させるなど、作業を手伝わせないでください。

枝払い：

- キックバックの少ないチェーンを使用してください。
- 可能な限りチェーンソーをしっかりと支えて作業してください。
- 枝払いの際は、幹の上に立たないでください。
- バーの先端で切らないでください。
- 張力がかかっている枝に注意してください。
- 決して一度に数本もの枝を切らないでください。

張力がかかった状態で横たわった、あるいは立っている木の玉切り作業：

必ず最初に圧縮された側 (1)、次に張力がある側 (2) の正しい順序で切断して、キックバックや挟まる危険性を回避します - **ケガの恐れがあります。**



- 圧縮がかかっている側 (1) に負荷軽減カットを入れます
- 張力がかかっている側 (2) に玉切りを入れます

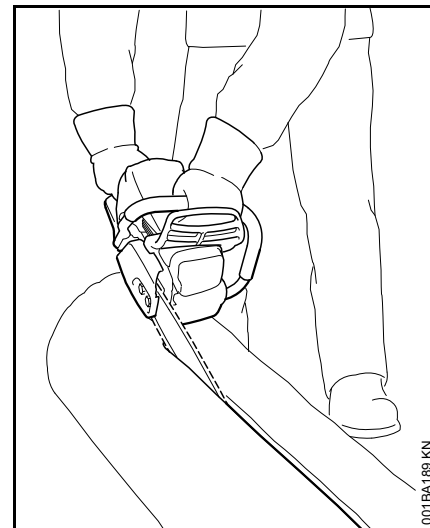
玉切りを下から上に向けて切り込む (下側切断) ときは、**プッシュバックの危険**がありますので、ご注意ください。



注記

ソーチェーンが損傷しますので、地面に横たわっている木を地面に触れている位置で、切断しないでください。

縦引き：

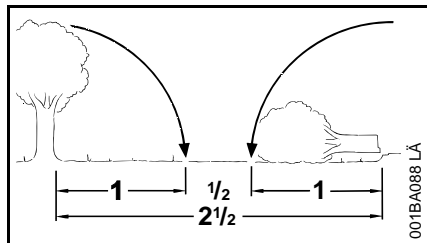


スパイクバンパーを使用せずに切断する技術です - プルインの危険があります - ガイドバーをできるだけ浅い角度にして切断を始めます - **キックバックの危険**が増えるので、より注意を払う必要があります。

伐倒の準備

伐倒エリア内に誰もいないことを確認します - 助手は例外です。

倒木で事故が生じないように注意してください - 警告の掛け声がエンジン音でかき消されることがあります。



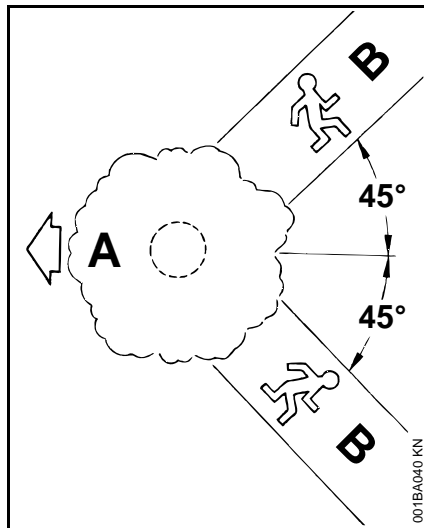
伐倒する樹木から最低でも 2.5 本分の距離を確保してください。

伐倒方向と退避路の決定

木立の中で樹木を倒す隙間を選びます。

特に次の点に注意してください：

- 自然に傾いている樹木
- 異常に枝が茂った樹木、非対称に成長した樹木、樹木の損傷
- 風向と風速 - 強風時は伐倒作業を中止してください
- 傾斜方向
- 隣接する樹木
- 雪の荷重
- 樹木の全般的な状態を考慮します - 幹の損傷または枯れ木（もろくなったり、腐ったり、しおれたりした樹木）には特に注意してください



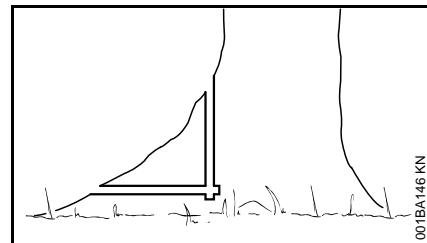
A 伐倒方向

B 退避路（退避経路）

- それぞれの作業者の退避路を設定します - 木が倒れる方向の反対側約 45° 斜め方向にします
- 退避路を掃除し、障害物を取り除きます
- 工具や機器を安全な距離を隔てた場所に置き、退避路には置かないでください
- 伐倒時は、必ず倒れる幹の脇に立ち、横方向を退避路に沿って後退します
- 傾斜面では、斜面に対して平行に退避路を設けます
- 退避路を通って避難する際には、落下する枝と樹頭に注意してください。

根本の作業エリアの準備

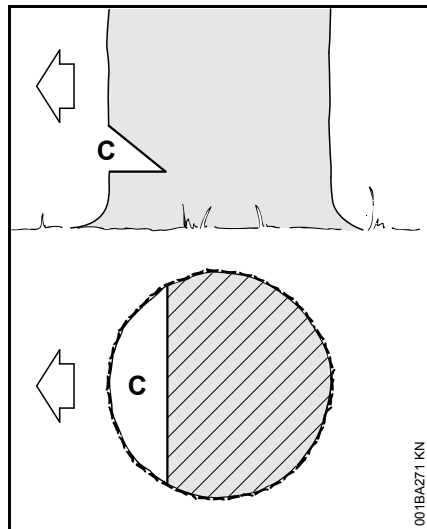
- まず、樹木の根本と作業エリアからじゃまになる枝や茂みを取り除き、安定した足場を確保します。
- 幹の下部から慎重に障害物を取り除きます（例えば斧等を使用します）- 砂、石、他の異物はソーチェンの切れ味を低下させます



- 最大の根張りを取り除きます：樹木が健全な状態な場合に限り、まず垂直に切断し、次に水平に切断して最大の根張りを先に取り除きます

受け口

受け口の準備

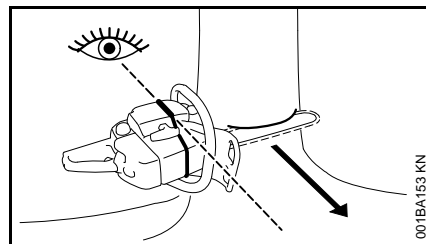


受け口 (C) によって伐倒方向が決まります。

重要：

- 伐倒方向に直角の受け口を作ります
- できるだけ地面の近くを切断します
- 幹の直径の 1/5 から 1/3 の深さまで切り込みます

カバーおよびファンハウジングの照準線を利用して伐倒方向を決定する



このチェーンソーには、カバーとファンハウジングに照準線が設けられています。その照準線を使用してください。

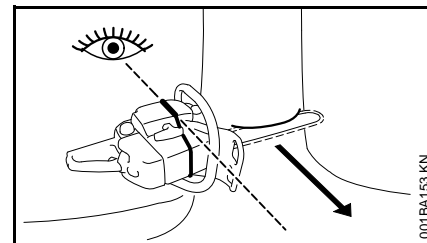
受け口を作る

受け口を作るときは、切り込みが伐倒方向と直角になるようにチェーンソーの位置を合わせます。

下部（水平）の切断と上部（角度付き）の切断で受け口を作成するためのさまざまな手順があります - 伐倒技術に関する国の規制を遵守してください。

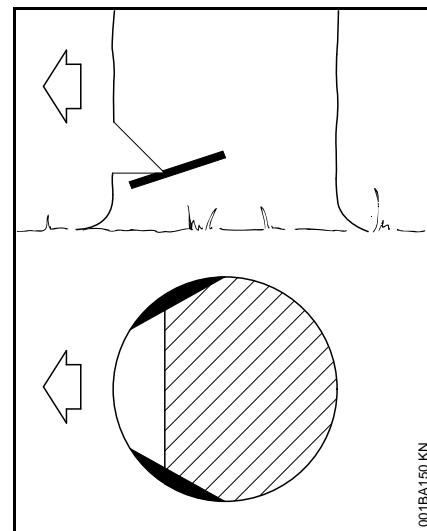
- 下部（水平）切断を行います
- 下部切断面まで約 45°-60° で上部（角度付き）切断を行います。

伐倒方向の確認



- チェーンソーのガイドバーを受け口の下部に差し込みます。照準線が予定した伐倒方向に向く必要があります - 必要に応じて再び受け口を切り、伐倒方向を修正します。

隔切り



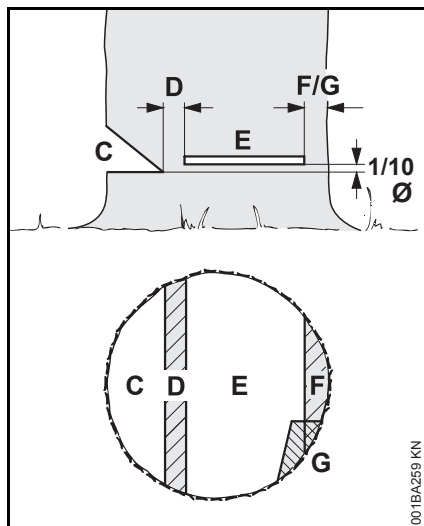
繊維が長い軟材を隔切りすると、樹木が倒れるときに辺材が裂けにくくなります。幹の両側の受け口の下部と同じ高さで、幹の直径の約 1/10 の深さの切

り込みを入れます。幹が太い樹木の場合、切り込み深さはガイドバーの幅以下にします。

病気の樹木は、隅切りしないでください。

伐倒の基本情報

基本寸法



受け口 (C) によって伐倒方向が決まります。

つる (D) は伐倒の際にちょうつがいのように作用し、木が倒れるのをコントロールする助けとなります。

- つるの幅：幹の直径の約 1/10
- 伐倒中は絶対につるを切断しないでください - 切断すると、計画しなかった方向に木が倒れます - **事故が起きる危険があります！**
- 腐っている樹木の場合は、つるを広く残します

樹木は追い口 (E) によって伐倒されません。

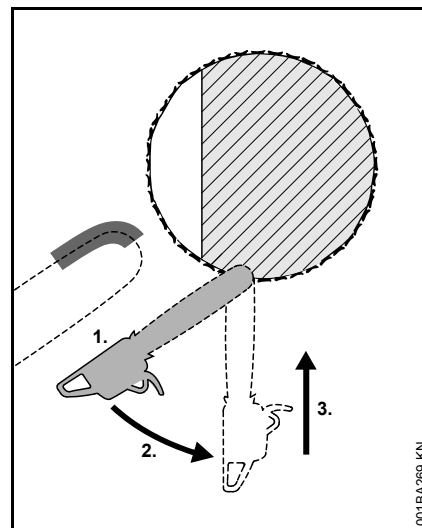
- 水平に切り込みます。
- 受け口 (C) 下部から幹の直径の 1/10 (少なくとも 3 cm) だけ高い位置に追い口を作ります。

追いつる (F) または追いつる (安定化) (G) は、樹木を保持し、木が想定よりも早く倒れるのを防ぐのに役立ちます。

- 追いつるの幅：幹の直径の約 1/10 - 1/5
- 追い口切りの際には、追いつるに切り込まないでください
- 腐っている樹木の場合は、追いつるを広く残します

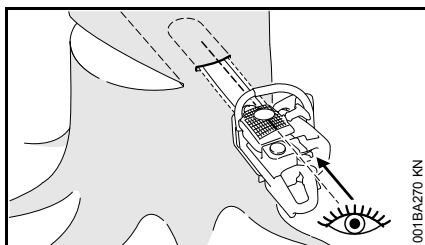
突っ込み切り

- 玉切り時の負荷軽減カット
- 彫刻



- 低キックバックソーチェーンを使用し、慎重に作業を行います

1. **キックバックが生じる危険があるため、ガイドバーノーズの下部を当てて切断を開始します - 上部は使用しないでください。切り目の深さがガイドバーの幅の 2 倍になるまで全速で切断します。**
2. **突っ込み切り位置に機械を慎重に差し込みます。キックバックやプッシュバックが生じる危険があります！**
3. **慎重に突っ込み切りを行います。プッシュバックが起きる危険があります。**



可能ならば突っ込み切り照準線を使用してください。突っ込み切り照準線とガイドバーの上部/下部を平行にします。

突っ込み切り中、突っ込み切り照準線はつるを平行にする(あらゆる箇所ですら同じ厚さを保つ)のに役立ちます。そのためには、突っ込み切り照準線を受け口の会合線に平行になるよう導きます。

伐倒用クサビ

伐倒用クサビはできるだけ早く(チェーンソーを制御するのに邪魔にならなくなった時点ですぐに)挿入します。伐倒用クサビを追い口に入れ、適切な工具で押し込みます。

アルミニウム製またはプラスチック製の伐倒用クサビのみを使用してください - 鉄製クサビは使用しないでください。鉄製クサビはソーチェーンに重大な損傷を与え、危険なキックバックを発生させるおそれがあります。

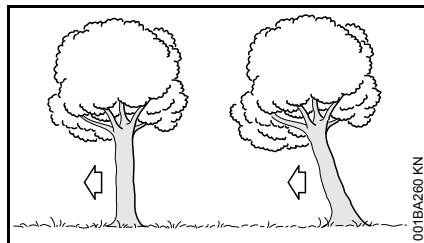
幹の直径と切り口の幅(追い口(E)の幅に近い)に応じて適切な伐倒用クサビを選択します。

伐倒用クサビの選択(適切な長さ、幅および高さ)については、STIHL サービス店にご相談ください。

適切な伐倒方法の選択

適切な伐倒方法の選定も、伐倒方向と退避路を決定するときを考えるべき樹木の特性に依存します。

そうした特性にはさまざまな要素があります。本書では、最も一般的な二種類の特性だけを取り上げます：

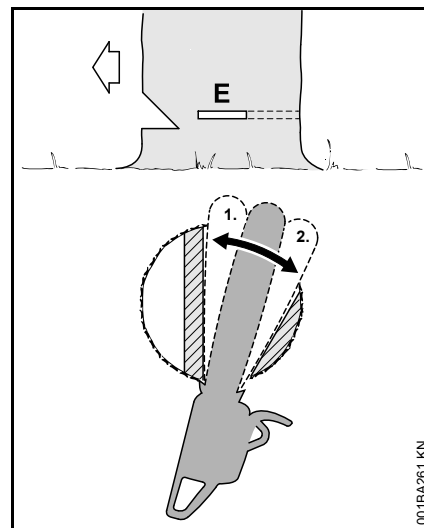


左側：	通常の樹木 - 均一な頭頂部を持つ、垂直にまっすぐな樹木
右側：	傾いた樹木 - 頭頂が伐倒方向に向いている樹木

追いつるを使用した伐倒(標準的な樹木)

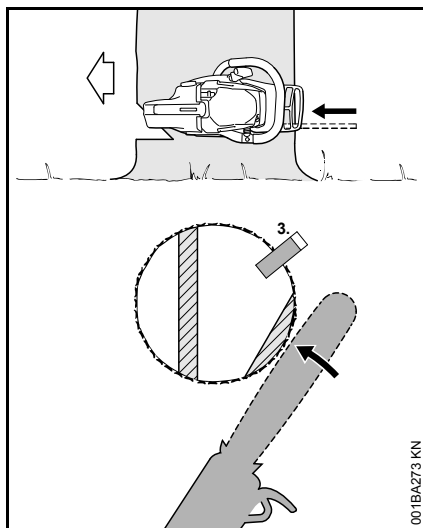
A) 細い幹

幹の直径がチェーンソーの切断長より短いときは、以下の方法で伐倒します。



周囲に大声で警告してから伐倒を開始してください。

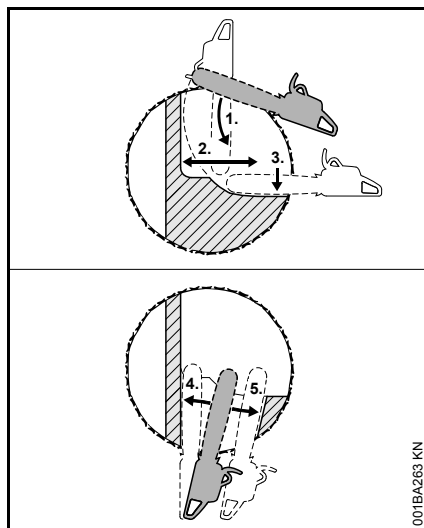
- 追い口(E)を突っ込み切りします - ガイドバーを完全に突っ込みます。
- つるの後にバンパースパイクをかみ合わせ、回転軸として使用します - チェンソーの移動を最小限に抑えます。
- つるまで追い口を作ります(1)。
- つるには切り込まないでください
- 追いつるまで追い口を作ります(2)。
- 追いつるには切り込まないでください。



- 伐倒用クサビを差し込みます (3)。
樹木が倒れる直前にもう一度、周囲に大声で警告してください。
- 追い口と平行に追いづるを切り込みます。両腕を完全に伸ばしてください。

B) 太い幹

幹の直径が機械の切断長よりも長いときは、以下の方法で伐倒します。



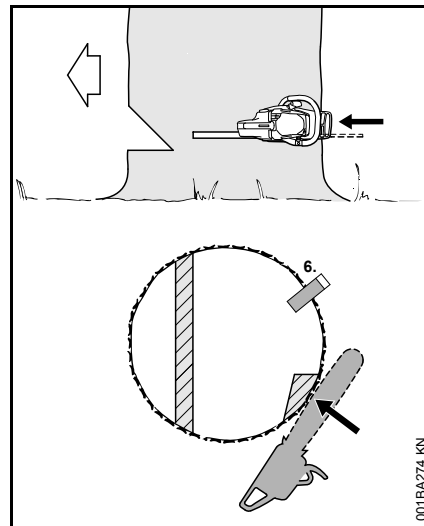
周囲に大声で警告してから伐倒を開始してください。

- バンパースパイクを追い口と同じ高さでかみ合わせ、回転軸として使用します - チェンソーの移動を最小限に抑えます。
- ガイドバーの先端をつるの手前で木材に食い込ませます (1) - チェンソーを完全に水平に導き、できるだけ広く回転させます。
- つるまで追い口を作ります (2)。
- つるには切り込まないでください
- 追いづるまで追い口を作ります (3)。
- 追いづるには切り込まないでください。

幹の反対側でも追い口を作る必要があります。

必ず最初の追い口と同じ高さで反対側の追い口を作ります。

- 突っ込み切りで追い口を作ります。
- つるまで追い口を作ります (4)。
- つるには切り込まないでください
- 追いづるまで追い口を作ります (5)。
- 追いづるには切り込まないでください。

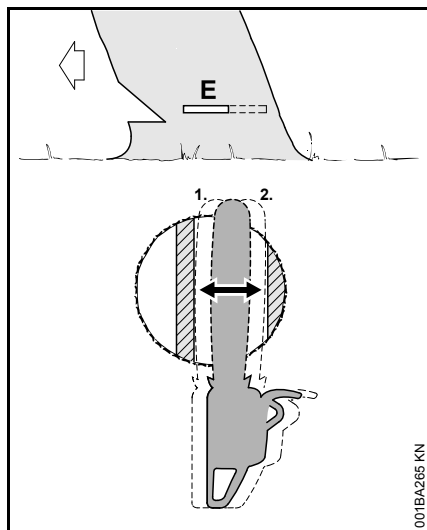


- 伐倒用クサビを差し込みます (6)。
樹木が倒れる直前にもう一度、周囲に大声で警告してください。
- 追い口と平行に追いづるを切り込みます。両腕を完全に伸ばしてください。

追いづるを使用した伐倒 (傾いた樹木)

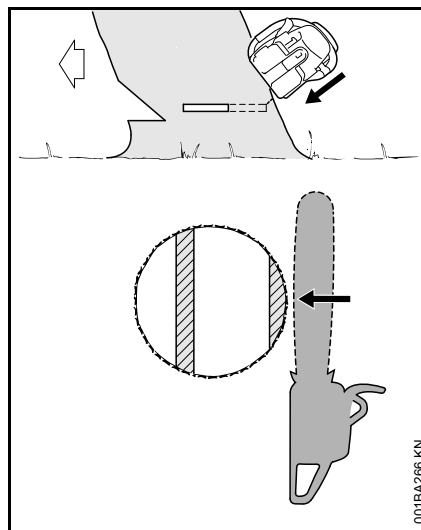
A) 細い幹

幹の直径がチェンソーの切断長より短いときは、以下の方法で伐倒します。



001BA265 KN

- 反対側に抜けるまで幹を突っ込み切りします。
- つるに向かって追い口 (E) を作ります (1)。
 - 水平に切り込みます。
 - つるには切り込まないでください
- 追いつるに向かって追い口を作ります (2)。
 - 水平に切り込みます。
 - 追いつるには切り込まないでください。

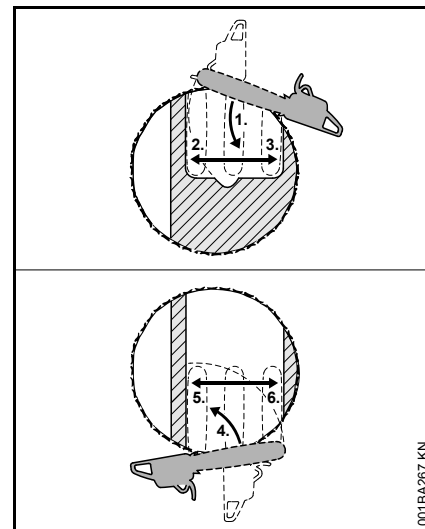


001BA266 KN

樹木が倒れる直前にもう一度、周囲に大声で警告してください。

- 腕を完全に伸ばした状態で、外側から下向きに追いつるを切断します。

B) 太い幹



001BA267 KN

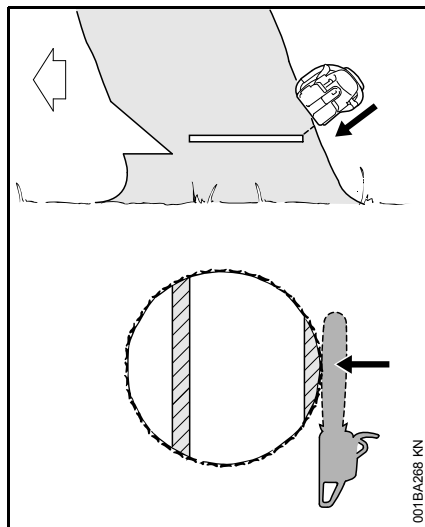
樹木の直径がガイドバーの長さを上回っているときは、以下の方法で伐倒します。

- 追いつるの後ろ側にバンパースパイクを当て、回転軸として使用します - 不必要にチェーンソーの位置を変えないでください。
- ガイドバーノーズをつるの手前の切り口に入れます - チェンソーを水平に保持し、できるだけ遠くへ回転させます (1)。
 - 追いつるやつるには切り込まないでください。
- つるまで追い口を作ります (2)。
 - つるには切り込まないでください
- 追いつるまで追い口を作ります (3)。
 - 追いつるには切り込まないでください。

幹の反対側でも追い口を作る必要があります。

必ず最初の追い口と同じ高さで反対側の追い口を作ります。

- つるの後にバンパスパイクをかみ合わせ、旋回軸として使用します - チェンソーの移動を最小限に抑えます。
- ガイドバーの先端を追いづるの手前で木材に食い込ませます (4) - チェンソーを完全に水平に導き、できるだけ広く回転させます。
- つるまで追い口を作ります (5)。
- つるには切り込まないでください
- 追いづるまで追い口を作ります (6)。
- 追いづるには切り込まないでください。



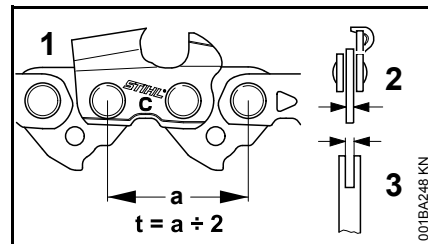
樹木が倒れる直前にもう一度、周囲に大声で警告してください。

- 腕を完全に伸ばした状態で、外側から下向きに追いづるを切断します。

カッティング アタッチメント

カッティング アタッチメントは、ソーチェン、ガイドバー、チェン スプロケットで構成されています。

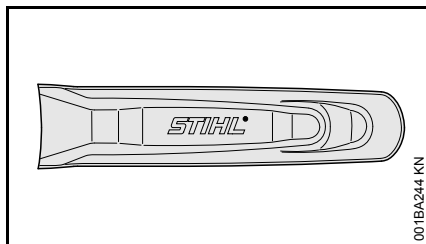
標準仕様のカッティング アタッチメントはチェンソーに合致するように設計されています。



- ソーチェン (1) のピッチ (t) を、チェンスプロケットやローロマチックガイドバーのノーズスプロケットのピッチと適合させてください。
- ソーチェン (1) のドライブ リンクゲージ (2) はガイドバー (3) の溝幅と一致させてください。

適合しないコンポーネントを使用すると、カッティング アタッチメントは短時間使用しただけで修理不可能なほどに破損してしまふことがあります。

チェンガード



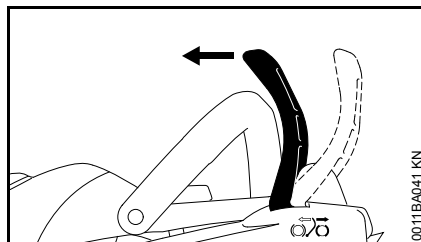
チェンソーはカッティングアタッチメントに適合するチェンガードが標準装備で同梱されます。

異なる長さのガイドバーがチェンソーに取り付けられている場合、常に正しい長さのチェンガードを使用してガイドバーを完全に覆うようにする必要があります。

適合するガイドバーの長さは、チェンガードの側面にマークされています。

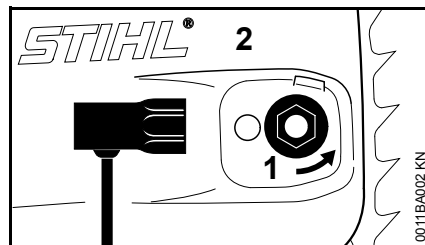
バーとチェンの取り付け

チェンブレーキの解除



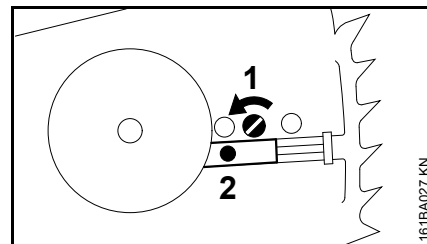
- カチツと音がするまで前ハンドル方向にハンドガードを引きます - チェンブレーキのロックが外れます。

チェンスプロケットカバーの取り外し

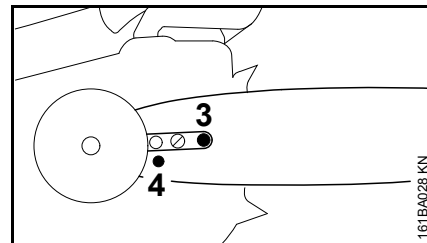


- キャプティブナット (1) を、スプロケットカバーの中で緩く垂れ下がるまで、反時計回りに回します。
- キャプティブナットと一緒にスプロケットカバー (2) を取り外します。

ガイドバーの取付け



- テンショナー スライド (2) がハウジングの溝の左端に当たるまで、スクリュー (1) を反時計回りに回します。



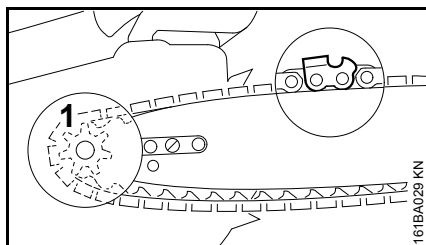
- ガイドバーをスタッド (3) に固定し、テンショナー スライドの出っ張りを位置決め穴 (4) にはめ込みます。

チェンの取付け

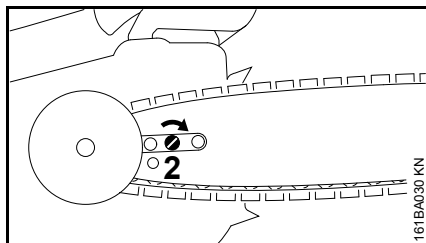


警告

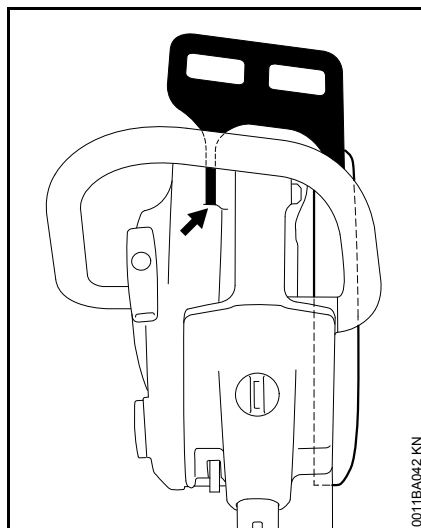
作業用手袋を着用してください。鋭利なカッターでケガをする危険があります。



- チェンをスプロケット (1) からガイドバーに沿って取り付けます。ガイドバー上側の刃先はバーの先端方向に向けてください。

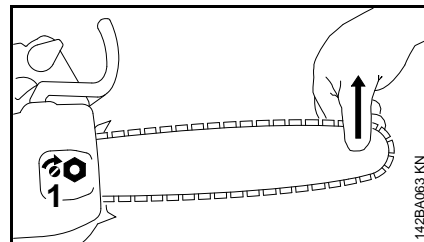


- バー下側のチェンのたるみがほとんどなくなるまで、スクリュー (2) を時計回りに回します - ドライブリンクがガイドバーの溝にかみ合います。



- スプロケットカバーを再び取り付けます。
ハンドガードのピボットピンがスリーブとかみ合うようにし、ナットをスタッドに取付け、手で軽く締めます。
- 「ソーチェーンの張り方」の項を参照してください。

ソーチェーンの張り方 (サイドチェーンテンション)



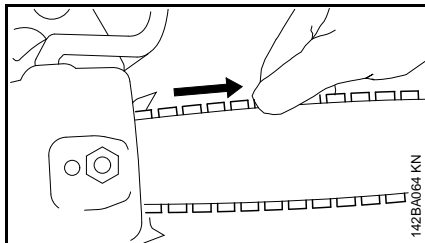
切断作業の合間に再調整する場合：

- エンジンを停止してください。
- ナットを緩めます。
- バーの先端を上に向けて保持します。
- スクリュードライバーでテンシヨニング スクリュー (1) を時計回りに回し、チェンがバーの下側に軽く触れるまでチェンを張ります。
- バーの先端を持ち上げたまま、ナットをしっかりと締めます。
- 「チェンの張り具合の点検」を参照してください。

新品のチェンは、しばらく使用したものよりも頻りに張りを調整する必要があります。

- チェンの張り具合は頻りに点検してください - 「作業中の注意事項」を参照してください。

チェーンの張り具合の点検



- エンジンを停止します。
- 作業用手袋を着用して手を保護してください。
- チェンは、バーの下側に軽く触れ、チェーンレキを解除した時に、手でバーに沿って引くことができる程度に張ります。
- 必要ならば、チェーンを張り直してください。

新品のチェーンは、しばらく使用したもののよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

- チェンの張り具合を頻繁に点検してください - 「作業中の注意事項」の章を参照してください。

燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。



警告

健康に害が及ぶため、ガソリンに直接触れたり、気化したガソリンを吸い込んだりしないでください。

STIHL モトミックス (MotoMix)

STIHL 社は、STIHL モトミックス (MotoMix) の使用をお勧めしています。すぐに使用可能なこの混合燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価です。この燃料を使用すると、常に適正な混合比率を維持することができます。

STIHL モトミックス (MotoMix) には、エンジンをさらに長寿命化する STIHL HP ウルトラ 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

STIHL モトミックス (MotoMix) が販売されていない市場もあります。

燃料の混合



注記

規定以外の不適切な燃料 / オイルを使用するか、規定以外の混合比率を用いると、エンジンに重度の損傷が生じることがあります。低品質のガソリンあるいはエンジンオイルは、エンジン、シーリングリング、ホース、燃料タンクを損傷させることがあります。

ガソリン

オクタン価が 90 以上の高品質ブランドのガソリンだけを使用してください - 無鉛、有鉛は問いません。

エタノール濃度が 10% 以上のガソリンは、手動調整が可能なキャブレター付きエンジンで作動関連の不具合を引き起こすことがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、エタノール濃度が 25% までのガソリン (E25) で最大出力を発揮できます。

エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 製 2 ストロークエンジンオイルのみを使用するか、次の仕様を満たす他の高性能エンジンオイルを使用してください：JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC、または ISO-L-EGD。

機械の耐用年数にわたって排気ガスが規制の限度値を超えないよう、STIHL 社は STIHL HP ウルトラ 2 ストロークエンジンオイルの使用をお勧めしています。

混合比率

50 : 1 (STIHL 2 サイクルエンジンオイルの場合) : 50 : 1 = ガソリン 50 に対してオイル 1

例

ガソリン	STIHL エンジンオイル (比率 50 : 1)
リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)

ガソリン	STIHL エンジンオイル (比率 50 : 1)	
リットル	リットル (ml)	ル
15	0.30	(300)
20	0.40	(400)
25	0.50	(500)

- 燃料の保管には承認された容器を使用してください。燃料容器にまずオイルを入れてからガソリンを入れ、十分に混ぜ合わせます。

燃料の保管

燃料は承認された安全タイプの燃料容器に入れ、照明や太陽光から保護された、涼しく安全で乾燥した場所に保管してください。

混合燃料は劣化します - 数週間で使い切る分だけを混合してください。混合燃料を 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、高温にさらすと、混合燃料は短期間で使用できなくなる場合があります。

STIHL モトミックスは、問題なく最長 2 年間保管することができます。

- 給油する前に混合燃料の入った携行缶をよく振ってください。

警告

携行缶内で圧力が生じている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

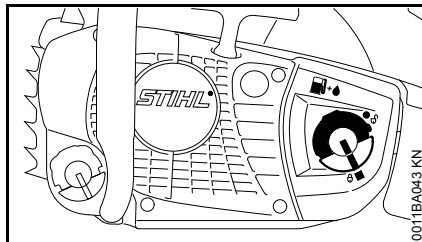
- 燃料タンクと携行缶は、時々十分に洗浄してください。

残ったガソリンと洗浄に使用した液体は、その地域の規定と環境要件に従って適切に処理してください。

給油

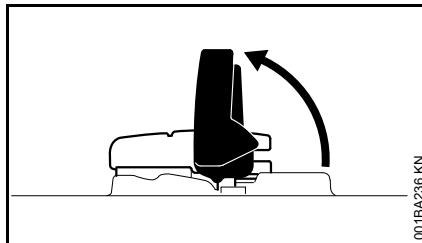


準備

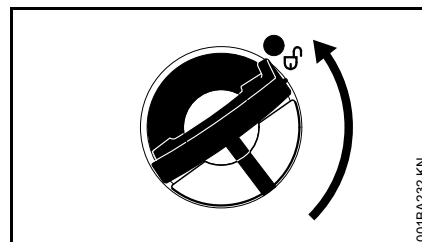


- 給油する前に、ゴミが燃料タンクの中に入るのを防ぐため、タンクキャップとその周りをきれいにします。
- タンクキャップが上を向くように本機を置いてください。

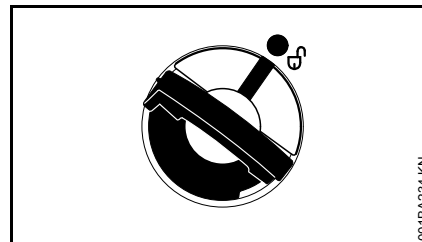
キャップの開け方



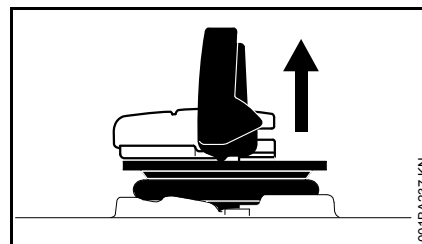
- グリップを垂直位置まで起こします。



- キャップを反時計回りに回します (約 1/4 回転)。



タンクキャップと燃料タンクのマークが合います。



- タンクキャップを取り外します。

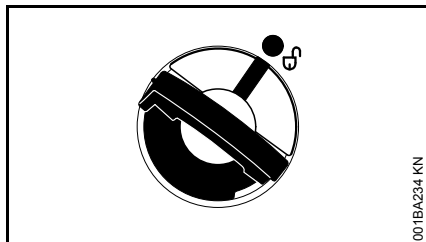
燃料の給油

給油時は、燃料をこぼしたり、あふれさせたりしないよう注意してください。

STIHL 社では、燃料用 STIHL フィラノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めしています。

- 燃料タンクに給油します。

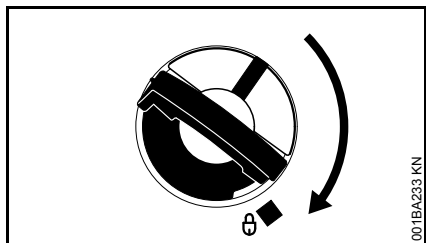
キャップの閉め方



001BA234 KN

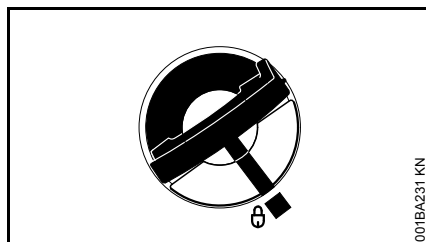
グリップを垂直位置に合わせます：

- キャップを取り付けます - タンクキャップと燃料タンクのマークを合わせてください。
- キャップを止まるまで押し下げます。



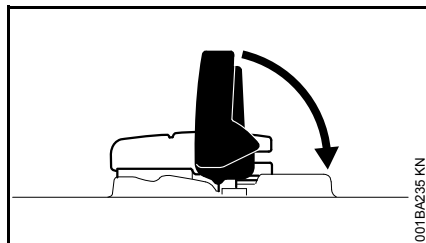
001BA233 KN

- キャップを押し下げたまま時計回りに回し、所定の位置にはめ込みます。



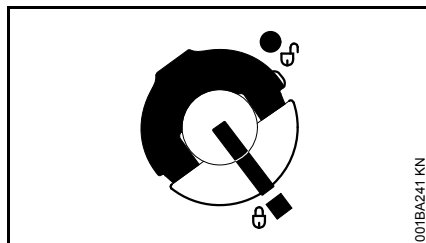
001BA231 KN

タンクキャップと燃料タンクのマークが合います。



001BA235 KN

- グリップを倒します。



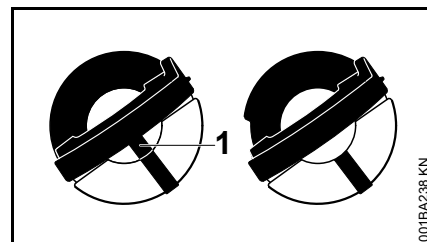
001BA241 KN

タンクキャップがロックされます。

タンクキャップを燃料タンク開口部にロックできない場合

キャップ下部が上部に対してねじれています。

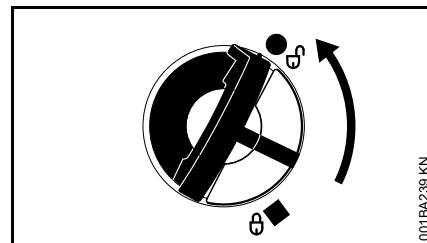
- 燃料タンクからキャップを外し、上から見て点検します。



001BA238 KN

左側：キャップ下部がねじれています - 内側マーク(1)が外側マークに合っています。

右側：適切な位置のキャップ下部 - 内側マークがグリップの下にあります。外側マークとは合っていません。



001BA239 KN

- キャップを開口部に取り付け、フイラーネックにかみ合うまでキャップを反時計回りに回します。
- キャップをさらに反時計回りに回します(約 1/4 回転) - キャップ下部が正しい位置に合います。
- キャップを時計回りに回し、所定位置にロックします - 「キャップの閉め方」の項を参照。

チェーンオイル

チェーンとガイドバーの自動的で信頼性のある潤滑のため、環境に優しい高品質チェーンオイルだけを使用してください。生分解が速いスチールバイオプラスをお勧めします。



注記

生分解性チェーンオイルには、十分な耐劣化性が必要です（スチールバイオプラス等）。耐劣化性に乏しいオイルは、樹脂化が速い傾向にあります。その結果、特にチェーン駆動部やチェーンに蓄積物が固着し、除去しにくくなります。オイルポンプが故障する原因ともなります。

使用するオイルの品質は、ソーチェーンとガイドバーの寿命に大きく影響します。従って、必ず専用のチェーンオイルだけを使用してください。



警告

廃油を使用しないでください！廃油は、長期間繰り返し肌に触れると、皮膚ガンを引き起こすことがあります。さらに、環境に害を与えることがあります！



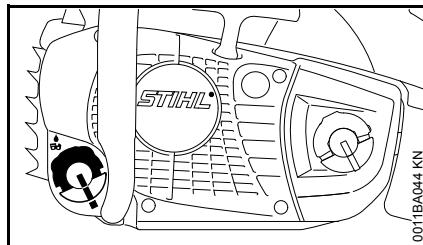
注記

廃油には必要な潤滑特性がなく、チェーンの潤滑には適していません。

チェーンオイルの給油



準備



- ゴミがタンクの中に落ちないように、タンクキャップとその周辺の汚れをきれいに拭き取ります
- タンクキャップが上を向くように本機を置いてください。
- タンクキャップを開けます。

チェーンオイルの給油

- 燃料を補給する度に、チェーンオイルを給油します。

給油の際にはチェーンオイルをこぼさないようにし、またチェーンオイルをタンクいっぱいに入れしないでください。

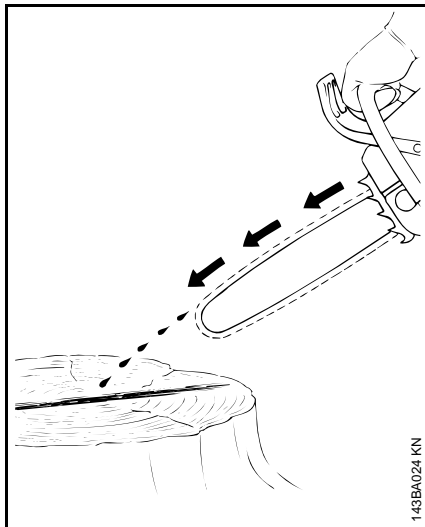
当社ではチェーンオイル用 STIHL フィラーノズル（特殊アクセサリ）の使用をお勧めします。

- タンクキャップを閉めます。

燃料タンクが空になっても、オイルタンクにはオイルが少量だけ残ります。

もし、タンク内のオイル量が減らない場合は、オイル供給システムが故障している可能性があります。チェーンオイルの吐出状態を点検し、オイルの通路をきれいにしてください。必要な場合は STIHL サービス店にお問い合わせください。当社では整備や修理を、認定を受けた STIHL サービス店のみに依頼されることをお勧めします。

チェーン オイルの吐出点検



ソーチェーンは常に多少のオイルを飛散しています。



注記

チェーンは、潤滑油なしで操作してはいけません。チェーンを乾いたまま回転させると、カッティングアタッチメント全体がすぐに損傷して、修理不能になります。作業を始める前に、常にチェーンの潤滑状態とタンク内のオイル量を点検してください。

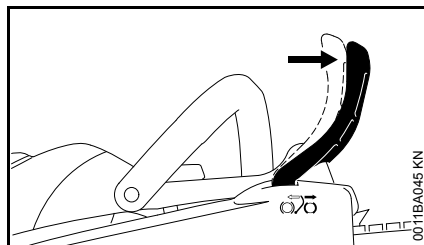
新品のチェーンは2～3分間ならし運転をしてください。

チェーンのならし運転を行った後、チェーンの張り具合を点検し、必要な場合は再調整してください。「チェーンの張り具合の点検」の項を参照してください。

チェーンブレーキ



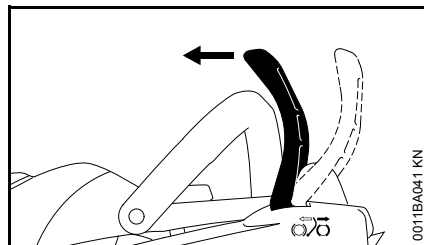
チェーンのロック



- 緊急時
- 始動時
- アイドリング時

左手でハンドガードをバー先端方向に押し、チェーンブレーキが作動します。また、一定のキックバック発生時の慣性力でチェーンブレーキが作動します。

チェーンブレーキの解除



- ハンドガードを前ハンドルの方に引き戻してください。



注記

エンジンを加速して、切断作業を開始する前（動作確認時は除く）にチェーンブレーキのロックを解除します。

チェーンブレーキがロックしている状態（ソーチェーンは静止した状態）でエンジン回転数を高くすると、短時間でエンジンやチェーン駆動部（クラッチ、チェーンブレーキ）が損傷します。

また、チェーンソーのキックバックの力が大きいと、前ハンドガードの慣性力が働き、チェーンブレーキが作動します。伐倒作業時のように、作業者の左手がハンドガードの後側になくても、ハンドガードはバーの先端方向に動きまわります。

チェーンブレーキは、ハンドガードを全く改造していない場合にだけ作動します。

チェーンブレーキの作動点検

作業開始前：エンジンのアイドリング回転時に、チェーンブレーキを作動させ（ハンドガードをバー先端方向に押し、短時間（最長3秒間）スロットルを全開にします - チェーンが回転してはいけません。ハンドガードはゴミで汚れておらず、自由に動く状態にしてください。

チェーンブレーキの整備

チェーンブレーキは普通に使用しても、徐々に磨耗します。熟練した整備担当者に定期的に整備してもらうことをお勧めします。当社では整備や修理を、認定を受けた STIHL サービス店の方に依頼されることをお勧めします。

次の整備期間を遵守してください。

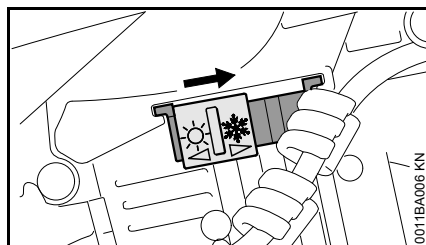
- 頻繁な使用： 3 カ月毎
- 頻繁ではない使用： 6 カ月毎
- 時々しか使用しない場合： 12 カ月毎

冬季作業



気温が +10 °C 未満の場合

- チェンスプロケットカバーを取り外します - 「バーとチェンの取り付け」を参照してください



- シャッターを「冬季作業」* に設定します

「冬季作業」設定では、熱くなった空気がシリンダーの周囲から吸い込まれ、冷たい空気と混ざります。このようにして、エアフィルターやキャブレターの凍結を防止します。

気温が + 20 °C 以上の場合

- 常にシャッターを「夏季作業」☀ に戻します

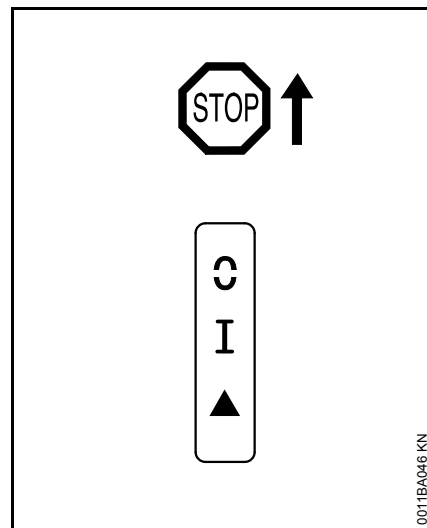


注記

エンジンの運転時に、故障やオーバーヒートが発生する恐れがあります！

エンジンの始動と停止

マスターコントロールレバーの位置



STOP または ◯ - マスターコントロールレバーを STOP または ◯ の方向に押し、イグニッションをオフにします。指を放すと、マスターコントロールレバーは運転位置 I に戻ります。



警告

エンジンが停止した後、イグニッションは自動的に再びオンになります。エンジンはリワインドスターターを操作して始動することができます。


運転位置 I - 暖機後のエンジンはこの位置で始動します。エンジンは、この位置で運転状態になります。

スタート位置 ▲ - 冷えているエンジンはこの位置で始動します。

マスターコントロールレバーの設定

マスターコントロールレバーを運転位置 I からスタート位置 ▲ に動かすには、トリガーロックアウトおよびスロットルトリガーを握り、その状態で保持します - マスターコントロールレバーをスタート位置 ▲ に合わせ、スロットルトリガーおよびトリガーロックアウトを放します。マスターコントロールレバーを放します - レバーはスタート位置 ▲ のままです。

スロットルトリガーロックアウトを押し、同時にスロットルトリガーを握ると、マスターコントロールレバーはスタート位置 (▲) から運転位置 (I) に移動します。

エンジンを切るには、マスターコントロールレバーを **STOP** または  の方向に動かします - 手を放すと、マスターコントロールレバーは運転位置 I に戻ります。

エルゴスタート付き機種

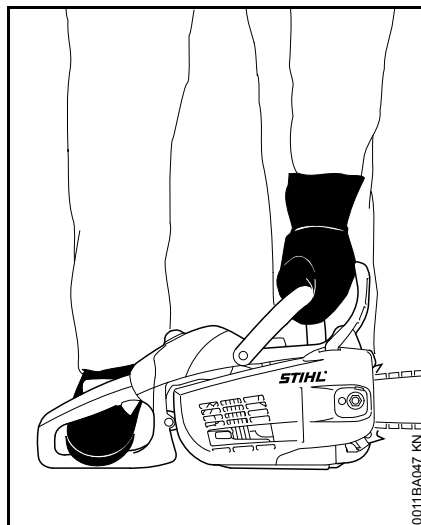
以下の場合、手動燃料ポンプを数回押ししてください (すでにバルブに燃料が充填されている場合も同様) :

- 初めて始動するとき。
- 燃料タンクが空になるまで運転した (エンジンが停止した) 場合。

チェーンソーの保持

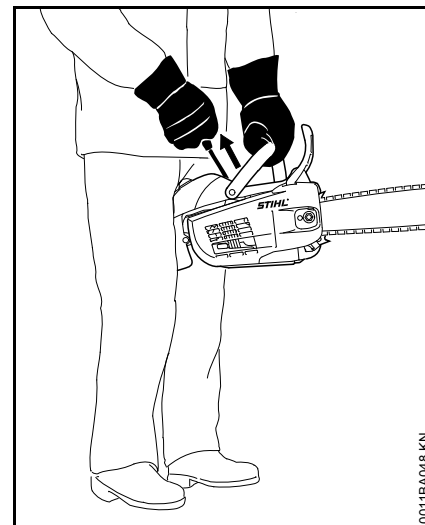
始動時には、次のいずれかの方法でチェーンソーを保持します。

地面に置く方法



- チェンソーを地面に置きます。安定した足場を保ちます - チェンが他の物体や地面に接触しないことを確認します。
- 左手で前ハンドルを握ってチェーンソーをしっかりと地面に押さええます - 親指がハンドルの下側に来るようにします。
- 右足のつま先を後ハンドルの中に入れ、確実に押さええます。

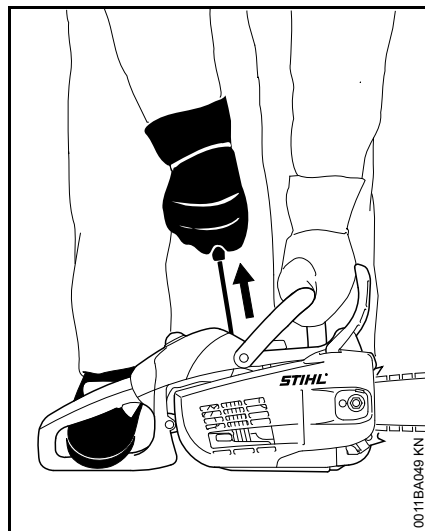
膝またはももの間に挟む方法



- チェンソーの後ハンドルを、両足の膝上部で確実に挟みます。
- 前ハンドルを左手でしっかりと握ります - 親指がハンドルの下側に来るようにします。

始動操作

標準機種



- スターターグリップを右手でゆっくりと引き、かみ合った感じがしたら、勢いよく引っ張ります。同時に前ハンドルを下に押し付けます。スターターロープは最後まで引き出さないでください - **切れるおそれがあります**。スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジング内にゆっくりと戻すと、スターターロープは適切に巻き込まれます。

手動燃料ポンプを装備していない機械：新品または長期間使用されていないエンジンの場合、スターターロープを数回引いて燃料システムに燃料を送り込む必要があります。

エルゴスタート付き機種

- スターターグリップを右手でゆっくりと徐々に引き、同時に前ハンドルを押し下げます。スターターロープは最後まで引き出さないでください - **切れるおそれがあります**。
- スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジング内にゆっくりと戻すと、スターターロープは適切に巻き込まれます。

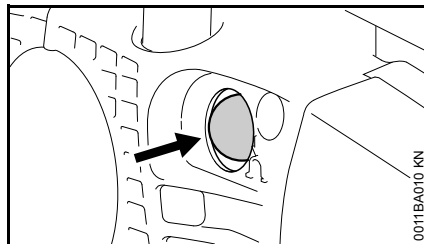
チェーンソーの始動



警告

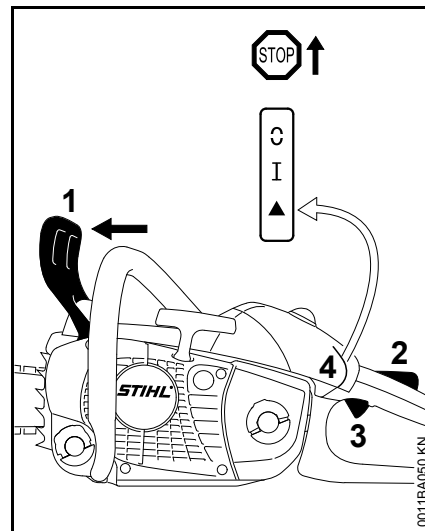
チェーンソーの作業者以外は作業場所から十分に離れてください。

エルゴスタート付き機種



- 手動燃料ポンプを最低 5 回押してください - すでにバルブが燃料で満たされていても、同様の操作を行います。

すべての機種

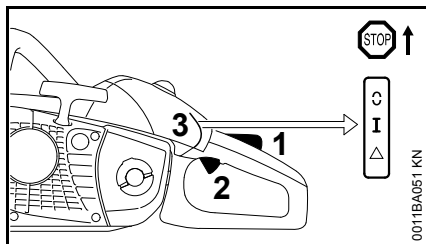


- ハンドガード (1) を前方に押します - チェンガロックします。

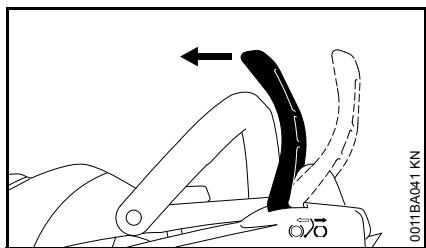
マスターコントロールレバー (4) は、通常の運転位置 I にあります。

- エンジンが冷えている場合：トリガーロックアウト (2) を押しながらスロットルトリガー (3) を引きます。両方のレバーをその位置で保持しながら、マスターコントロールレバー (4) をスタート記号 ▲ に合わせます。
- チェンソーをしっかりと保持します。
- エンジンが始動するまで、必要な回数だけスターターグリップを素早く強く引きます。
- エンジンがかからない場合：マスターコントロールレバー (4) をスタート位置 ▲ に合わせ、始動手順を繰り返します。

エンジンがかかったらすぐに



- スタート位置 ▲ でエンジンを始動させた場合：トリガーロックアウト (1) を押し込み、同時にスロットルトリガー (2) を引きます - マスターコントロールレバー (3) が運転位置 I に移動し、エンジンはアイドル回転になります。



- ハンドガードを前ハンドルの方に引き戻してください。

チェンブレーキのロックが解除されます - チェンソーの使用準備が完了しました。



注記

必ずチェンブレーキを解除してから、エンジンを加速させます。チェンブレーキがかかっている状態 (ソーチェンがロックされている状態) でエンジン回転数を上げると、クラッチとチェンブレーキがすぐに損傷します。

外気温度が極めて低いとき

- 必要に応じて冬季作業の位置にします - 「冬季作業」を参照してください。

エンジンの停止

- マスターコントロールレバーを STOP または ◊ の方向に動かします - 手を放すと、マスターコントロールレバーは通常の運転位置 I に戻ります。

エンジンがかからない場合

- すべての設定が正しいか確認します。
- 燃料タンク内に燃料があるか確認し、必要に応じて給油します。
- スパークプラグターミナルが適正に接続されているか確認します。
- 始動手順を繰り返します。

または：

燃焼室内の混合気が濃すぎ、エンジンが燃料であふれている可能性があります。

- スパークプラグを取り外します - 「スパークプラグ」を参照してください。
- スパークプラグを乾かします。
- チェンソーを地面に置きます。
- マスターコントロールレバーが止まるまで STOP または ◊ の方向に押し、そこで保持します。



警告

マスターコントロールレバーが STOP または ◊ に当たっていない場合、点火火花が生じることがあります。

- リワインドスターターを数回引きます。
- マスターコントロールレバーを放します - 運転位置 I に戻ります。
- スパークプラグを取り付けます - 「スパークプラグ」を参照してください。
- 指示どおりにチェンソーを保持し、始動します。

作業中の注意事項

ならし運転

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転（無負荷でフルスロットル）で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5 ~ 15 回分の使用後となります。

作業中



注記

チェンブレイキが解除されたときのみスロットルを握ります。チェンブレイキがロックしている状態（チェンはロックした状態）でエンジン回転数を高くすると、短時間でエンジンやチェン駆動部（クラッチ、チェンブレイキ）を損傷します。

チェンの張りを時々点検してください！

長期間使用しているソーチェンに比べて、新しいソーチェンは頻りに張り直してください。

チェンが冷えている場合

チェンがバーの下部に軽く触れるが、手で回せるくらいが正しい張り方です。必要に応じて、チェンの張りを再調整します - 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

作業温度のチェン

チェンが伸びてきます。ドライブリンクがバーの下側のバーの溝から出てはいけません - そうしないと、チェンがバーから飛び出すことがあります。チェンの張りを再調整します - 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。



注記

チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないと、クランクシャフトとベアリングを損傷することがあります。

長時間のフルスロットル運転後

長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドルリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品（イグニッションやキャブレター）を熱から守るためです。

作業後

- 作業中に暖まったチェンの張りを調整した場合、作業終了後にチェンを緩めてください。



注記

作業が終了したらチェンは必ず緩めてください。チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないと、クランクシャフトとベアリングを損傷することがあります。

短期間の保管

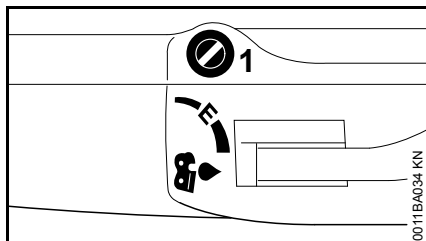
エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを一杯にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。

長期間の保管

「機械の保管」を参照

オイル量の調節

切断長、木の種類および作業方法によって、必要なオイルの量が異なります。



オイルの流量は、必要に応じて、機械の上側にある調整スクリュー (1) を使用して調整できます。

E マチックの位置 (E)。中程度のオイル流量 -

- 調整スクリューを「E」(E マチック位置) まで回します

オイル流量を増加するには -

- 調整スクリューを時計回りに回します

オイル流量を減らすには -

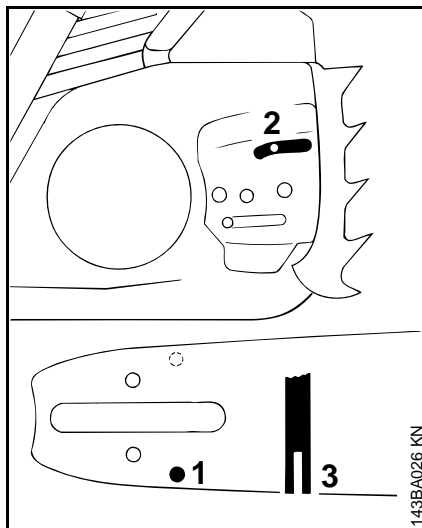
- 調整スクリューを反時計回りに回します



注記

チェーンは、必ずオイルを塗布した状態に保ってください。

ガイドバーの保守



- 目立てをするたびおよびチェーンを交換するたびに、特にスプロケットノーズおよび下部での不均一な磨耗を防ぐため、バーを反転します
- オイル インレット孔 (1)、オイル出口チャネル (2)、およびバーの溝 (3) を、定期的に掃除してください
- ファイリング ゲージ (特殊アクセサリ) の測定ツールを使用して、最も磨耗している場所の溝の深さを測定します

チェーンのタイプ	チェーンのピッチ	最小溝深さ
ピコ	1/4" P	4.0 mm
ラピッド	1/4"	4.0 mm

ピコ	3/8" P	5.0 mm
ラピッド	3/8"; 0.325"	6.0 mm
ラピッド	0.404"	7.0 mm

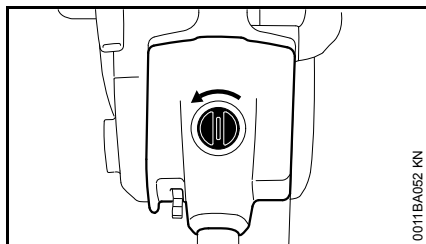
溝がこの深さ以上でない場合：

- ガイドバーを交換します

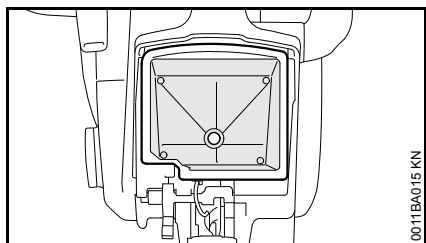
そうしないと、ドライブ リンクが溝の底面に擦れます - カッターの底部とタイストラップがバーに沿いません。

エアフィルターの掃除

エンジンの出力が著しく低下した場合



- ツイストロックを反時計回りに90°回します。
- シュラウドを上を外します。



- エアフィルターを上を外します。
- フィルターを、STIHL 特殊洗浄剤 (特殊アクセサリ) またはきれいな不燃性の溶液 (例: ぬるい石けん水) で洗浄し、乾かします。



注記

フリースフィルター (オプション) の掃除には、ブラシを使用しないでください。

破損したフィルターは必ず交換してください。

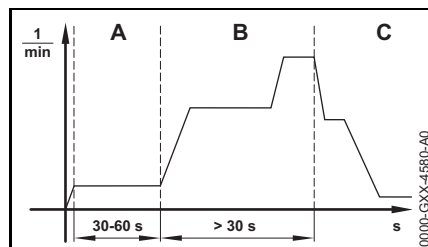
M-Tronic

このチェンソーは、性能が最適化されるよう作業中に自動調整されます。較正を行うと、チェンソーの性能はより短時間で最適化されます。

外気温が -10°C 以下またはエンジンが冷えている場合:

- エンジンを始動し、チェンブレーキを解除します。
- スロットルを約1分間開閉させ、エンジンを暖機します。
- エンジンを切ります。

チェンソーを次の手順で較正します:



- マスターコントロールレバーを ▲ の位置にセットします。
- チェンブレーキを掛けます。
- スロットルトリガーを握らずにエンジンをかけます。エンジンが始動し、マスターコントロールレバーは ▲ の位置に留まります。
- スロットルトリガーを握らずにエンジンを30秒以上作動させます。ただし、60秒以上は作動させないでください。



警告

チェンブレーキが解除されていると、チェンが回転することがあります - ケガをするおそれがあります。

チェンソーを取扱説明書の説明に従って保持します。回転するソーチェンには触れないでください。

- チェンブレーキを解除します。



注記

較正作業は、チェンソーが適切に較正される前にスロットルトリガーを放すと中止されます。その場合は、較正作業を再開させる必要があります。

- スロットルトリガーを完全に握り、そのまま保持します。



注記

較正作業中は、スロットルトリガーを完全に握っておかないと、チェンソーが適切に較正されないおそれがあります。それによりチェンソーが損傷することがあります。

- スロットルトリガーを完全に握り、そのまま保持します。
- スロットルトリガーを30秒以上握り、そのまま保持します。

エンジンが加速し、チェンが回転します。チェンソーの較正が行われます。較正中は、エンジン回転数が大きく変動します。

エンジンがストールした場合:

- チェンソーの再較正を試みてください。

エンジンが再びストールした場合:

- チェンブレーキを掛けます。
- チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。チェンソーが故障しています。

エンジン回転数が大きく低下したらすぐに：

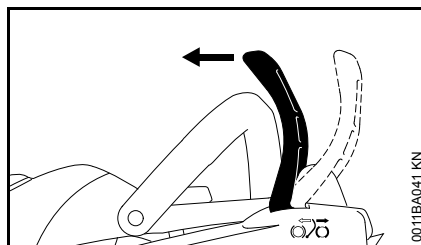
- スロットルトリガーを放します。エンジンはアイドリング回転になります。以上でチェンソーの較正作業が完了し、使用準備が整います。

スパークプラグ

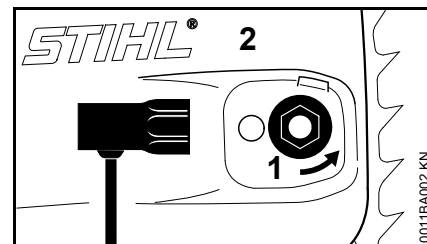
- エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドリングが不安定になったら、まずスパークプラグを点検してください。
- 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

スパークプラグの取り外し

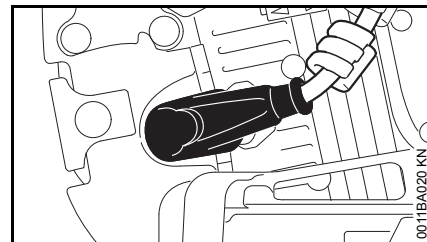
- マスターコントロールレバーを停止位置 (0) にセットします。



- チェンブレーキを解除します。

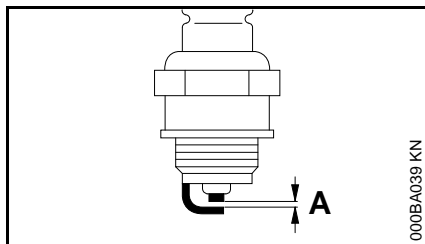


- キャプティブナット (1) を、スプロケットカバーの中で緩く垂れ下がるまで、反時計回りに回します。
- キャプティブナットと一緒にスプロケットカバー (2) を取り外します。



- スパークプラグターミナルを抜き取ります。
- スパークプラグを緩めます。

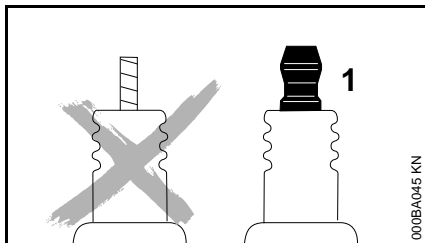
スパークプラグの点検



- 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- 電極ギャップ (A) を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境



⚠ 警告

アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあり

ます。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

スパークプラグを取り付けます。

- スパークプラグを取り付け、スパークプラグターミナルを(しっかりと押し込んで)接続します - 逆の手順で、他の部品をすべて取り付けます。

機械の保管

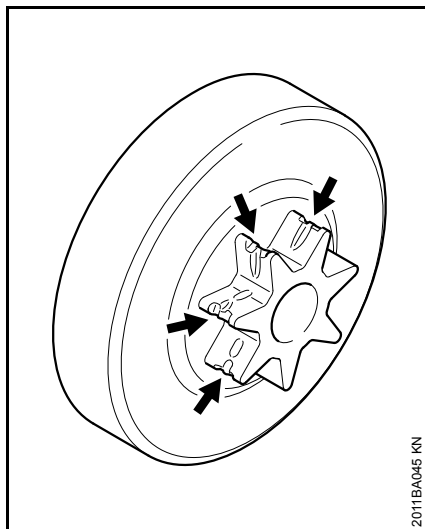
約3ヵ月以上の場合：

- 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- 燃料は、地域の環境規制条件通りに処理してください。
- キャブレターのダイヤフラムの固着を防ぐため、エンジンを運転してキャブレター内の燃料を空にしてください。
- ソーチェンとガイドバーを取り外し、汚れを落とし、防錆オイルを吹き付けます。
- 機械を丁寧に掃除します。特にシリンダーフィンとエアフィルターに注意します。
- チェンオイルに生分解性オイル(スチールバイオプラス等)を使用している場合、オイルタンクいっぱいになるまでオイルを充填します。
- 機械を乾いた、高所または鍵の掛かる場所に保管してください。子供などによる許可外の使用を避けてください。

チェーン sprocket の点検

- チェンブレーキを解除します：ハンドガードを、前ハンドルに向かって引きます。
- チェン sprocket カバー、ソーチェーン、ガイドバーを外します。

チェーン sprocket の交換



2011BA045 KN

- ソーチェーンを2回交換する度に、あるいはそれ以前に
- sprocket 上の磨耗マーク(矢印)が約 0.5 mm を超えたら、チェーンの寿命が短くなるので、直ちに交換します。ゲージ(特殊アクセサリ)を使用して磨耗度の深さを確認します。

1つのsprocketに対し2本のチェーンを交替で使うのが理想的です。

当社では、チェンブレーキが確実に正しく作動するように、スチール純正sprocketを使用されることをお勧めします。

チェーン sprocket の交換は、スチールサービス店に依頼してください。当社では整備や修理を、認定を受けたスチールサービス店だけに依頼されることをお勧めします。

ソーチェーンの整備と目立て

ソーチェーンを正しく目立てして楽に切断作業を行う

正しく目立てされたチェーンを使うと、ほんの少し押すだけで楽に木材を切ることができます。

切れ味が悪いまたは損傷しているソーチェーンを使用しないでください - 身体に大きな負担がかかり、振動が激しく、切断状態が悪く、摩耗が早くなります。

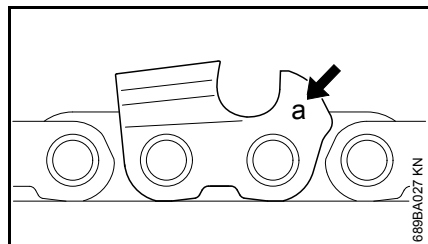
- ソーチェーンの汚れを取り除きます
- ソーチェーンの亀裂およびリベットの損傷を点検します
- 損傷または磨耗しているチェーン構成部品を交換して、形状および磨耗に関して残存部分に適合するようにします - 状態に応じて再加工します

超硬チップ付き(デュロ)ソーチェーンは、特に耐摩耗性が強くなっています。最適な目立てをするには、スチールではスチールサービス店をお勧めします。

⚠ 警告

下記の角度と寸法に適合することが絶対に必要です。目立てが不適切なソーチェーン(特にデプスゲージが低すぎる)では、チェーンソーがキックバックを起こしやすくなります - ケガの危険!

チェンのピッチ



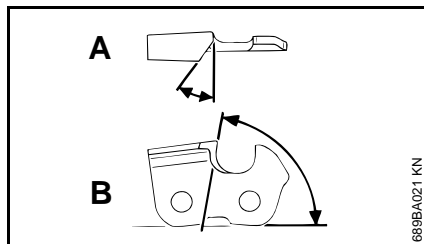
チェンのピッチのマーキング (a) が、個々のカッターのデプスゲージの部分に刻印されています。

マーキング (a)	チェンのピッチ	
	インチ	mm
7	1/4 P	6.35
1 または 1/4	1/4	6.35
6、P または PM	3/8 P	9.32
2 または 325	0.325	8.25
3 または 3/8	3/8	9.32
4 または 404	0.404	10.26

使用するヤスリの直径は、チェンピッチによって異なります - 表「目立工具」を参照してください。

カッターの角度は、目立てをする間維持する必要があります。

上刃・横刃目立て角度



A 上刃目立て角度

スチールソーチェンは、上刃目立て角度 30 度で目立てします。リッピングチェンは例外で、上刃目立て角度が 10 度です。リッピングチェンは名称に X が含まれます。

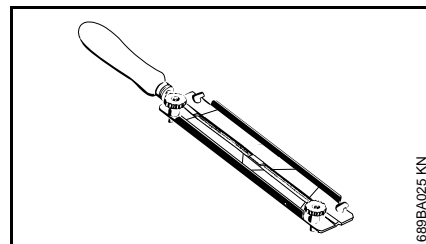
B 横刃目立て角度

指定されたファイルホルダーおよびファイル直径を使用すると、自動的に適切な横刃目立て角度になります。

刃の形状	角度 (°)	
	A	B
マイクロ = セミチゼル歯、 63 PM3、26 RM3、36 RM など	30	75
スーパー = フルチゼル歯、 63 PS3、26 RS、36 RS3 など	30	60
リッピングチェン、 63 PMX、36 RMX など	10	75

カッターの角度は、ソーチェンのすべてで同じにする必要があります。角度が一定でない場合：ソーチェンの動作が雑で不均等で、磨耗が早く、ソーチェンが破損することさえあります。

ファイルホルダー

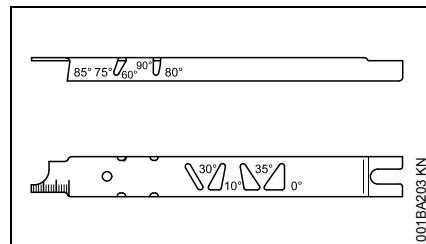


● ファイルホルダーの使用

手でソーチェンを目立てするときは、必ずファイルホルダー (特殊アクセサリ、表「目立工具」を参照) を使用します。ファイルホルダーには、目立て角度のマーキングがあります。

専用のチェンソーヤスリを使用してください！他のヤスリは切断の形状とタイプに関して不適切です。

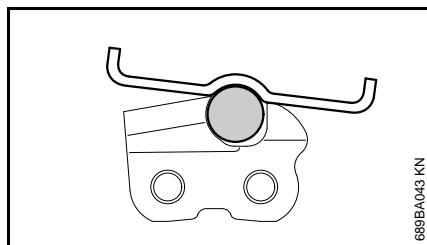
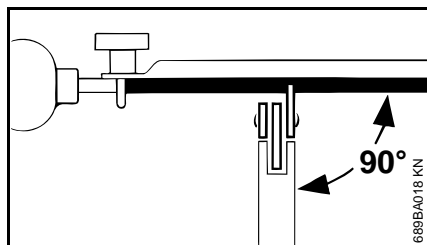
角度を確認するには



スチールファイリングゲージ (特殊アクセサリ、表「目立工具」を参照) を使用します - 上刃・横刃目立角、デプスゲージの設定、および刃の長さの点検、さらに溝とオイル孔の掃除に使える、便利な汎用ゲージです。

正しい目立

- チェンピッチに合った目立ツールを選びます
- 必要に応じてガイドバーを固定します
- ソーチェンをブロックします - ハンドガードを前方に押します
- ソーチェンを進めるには、ハンドガードをハンドルバーに向けて引きます：チェンブレイキが解除されます。クイックストップスーパーチェンブレイキシステムでは、さらにスロットルトリガーロックアウトを押します
- 目立てを頻繁に行い、ほんのわずかに刃先を擦ります - 簡単な目立てには、通常、ヤスリを2、3回当てるだけで十分です



- ヤスリの位置：ファイルホルダーのマーキングで指定された角度で水平方向（ガイドバーの側面に対

して直角）に、ファイルホルダーを刃とデプスゲージの上に置きま

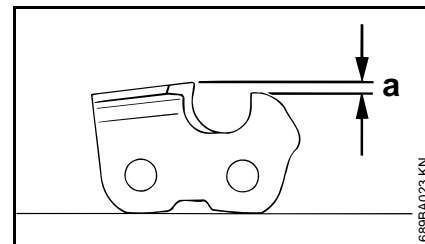
- 必ず内側から外側に向けてヤスリをかけます
- ヤスリは前方ストロークのみで目立てをします - 後方ストロークのときはヤスリを少し離します
- タイストラップおよびドライブリンクにヤスリをかけないください
- 定期的にヤスリを少し回して、不均等に磨耗しないようにします
- ヤスリのバリを取り除くには、硬木の小片を使用します
- ファイリングゲージで角度を確認します

すべてのカッターの長さを同じにします。

カッターの長さが異なると、刃の高さも異なり、ソーチェンの動作が荒くなり、チェンが破損することがあります。

- すべてのカッターを最も短いカッターと同じ長さに仕上げます - 理想的には電動式目立機を使用するサービス店で実施します

デプスゲージの設定



デプスゲージによって、カッターが木に食い込む深さ、つまり切りくずの厚さが決まります。

- a デプスゲージとカッター先端の間の必要な距離

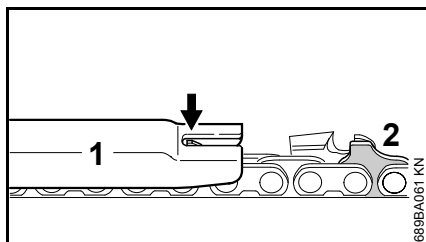
霜がないときに軟らかい木を切断する場合は、距離を最大 0.2 mm (0.008") 増やすことができます。

チェンのピッチ		デプスゲージ距離 (a)	
インチ	(mm)	mm	(インチ)
1/4 P	(6.35)	0.45	(0.018)
1/4	(6.35)	0.65	(0.026)
3/8 P	(9.32)	0.65	(0.026)
0.325	(8.25)	0.65	(0.026)
3/8	(9.32)	0.65	(0.026)
0.404	(10.26)	0.80	(0.031)

デプスゲージを低くする

カッターの目立てを行うと、デプス量が小さくなります。

- 目立てを行うたびにデプスゲージの設定を確認します



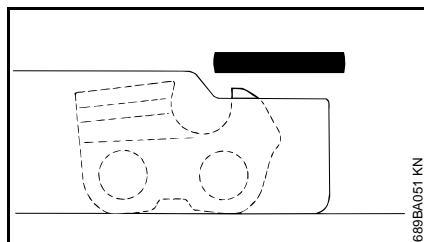
- チェンピッチに適切なファイルゲージ (1) をソーチェンに載せ、確認するカッターに押しつけます - デプスゲージがファイルゲージより突き出ている場合、デプスゲージを再加工する必要があります

セーフティドライブリンクが付いたソーチェン (2) - セーフティドライブリンクの上部 (2) (サービスマーキング付き) はカッターのデプスゲージと一緒に下がります。

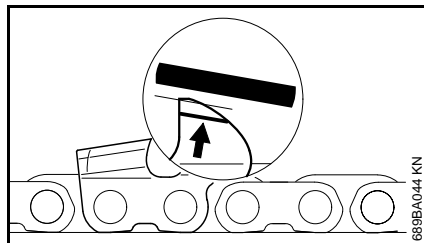


警告

セーフティドライブリンクの残りの部分は、目立てしてはいけません。チェーンソーがキックバックを起こす危険性が高まる可能性があります。



- デプスゲージを加工し、ファイルゲージと揃うようにします

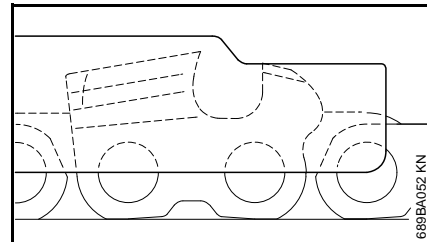


- その後、デプスゲージの先端をサービスマーク (矢印を参照) と平行になるようにドレッシングします - その際、デプスゲージの最も高い位置が、さらに後方にずれないように注意します



警告

デプスゲージが低すぎると、チェーンソーがキックバックを起こしやすくなります。



- ファイルゲージをソーチェンに載せません - デプスゲージの最も高い位置がファイルゲージと一致しなければなりません
- 目立てが終了したら、ソーチェンをよく洗浄し、ヤスリやグラインダーの切削分を除いて、十分に潤滑油を塗布します
- 長期間使用しない場合、ソーチェンを洗浄して、潤滑油を塗布した状態で保管します

目立工具 (特殊アクセサリ)

チェーンのピッチ	丸ヤスリ Ø	丸ヤスリ	ファイルホルダー	ファイルゲージ	平ヤスリ	目立セット ¹⁾	
インチ (mm)	mm (インチ)	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号	
1/4P	(6.35)	3.2 (1/8)	5605 771 3206	5605 750 4300	0000 893 4005	0814 252 3356	5605 007 1000
1/4	(6.35)	4.0 (5/32)	5605 772 4006	5605 750 4327	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1027
3/8 P	(9.32)	4.0 (5/32)	5605 772 4006	5605 750 4327	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1027
0.325	(8.25)	4.8 (3/16)	5605 772 4806	5605 750 4328	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1028
3/8	(9.32)	5.2 (13/64)	5605 772 5206	5605 750 4329	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1029
0.404	(10.26)	5.5 (7/32)	5605 772 5506	5605 750 4330	1106 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1030

¹⁾ 丸ヤスリ、平ヤスリ、ファイリングゲージ付きファイルホルダーで構成

整備表

次の項目は、通常の使用条件の場合に適用されます。毎日の作業時間が通常よりも長い、作業条件が悪い場合（非常に粉塵の多い場所、樹脂分の多い材木、熱帯樹からの材木等）は、それに応じて表に示された間隔よりも短くしてください。時々しか使用しない場合は、整備間隔を相応に長くすることが可能です。		作業開始前	作業終了後または毎日	燃料給油時	毎週	毎月	毎年	故障時	損傷時	必要に応じて
機械本体	目視検査（状態、漏れ）	X		X						
	清掃		X							
スロットルトリガー、スロットルトリガーロックアウト、チョークレバー、停止スイッチ、マスターコントロールレバー（装置によって異なる）	機能テスト	X		X						
チェンブレーキ	機能テスト	X		X						
	点検はサービス店に依頼してください ¹⁾									X
手動燃料ポンプ（装備モデルのみ）	点検	X								
	専門サービス店に修理を依頼してください ¹⁾								X	
燃料タンクの燃料ピックアップボディ / フィルター	点検					X				
	洗浄、フィルターインサートの交換					X		X		
	交換						X		X	X
燃料タンク	清掃					X				
チェンオイルタンク	清掃					X				
チェンオイル	点検	X								
ソーチェン	点検、切れ具合を確認	X		X						
	ソーチェンの張りの点検	X		X						
	目立て									X
ガイドバー	点検（摩耗、損傷）	X								
	掃除し、裏返す									X
	バリ取り				X					
	交換								X	X
チェンスプロケット	点検			X						

次の項目は、通常の使用条件の場合に適用されます。毎日の作業時間が通常よりも長い、作業条件が悪い場合（非常に粉塵の多い場所、樹脂分の多い材木、熱帯樹からの材木等）は、それに応じて表に示された間隔よりも短くしてください。時々しか使用しない場合は、整備間隔を相応に長くすることが可能です。		作業開始前	作業終了後または毎日	燃料給油時	毎週	毎月	毎年	故障時	損傷時	必要に応じて
エアフィルター	清掃							X		X
	交換								X	
防振エレメント	点検	X						X		
	交換は サービス店に依頼してください ¹⁾								X	
ファンハウジングの空気吸入口	清掃		X		X					X
シリンダーフィン	清掃		X			X				X
キャブレター	アイドル調整の確認 - ソーチェンが回らないこと	X		X						
	エンジンのアイドル中にソーチェンが回転し続ける場合、サービス店にチェンソーの点検と修理を依頼してください ¹⁾									X
スパークプラグ	電極ギャップの調整							X		
	100 運転時間ごとに交換									X
手が届くスクリュー、ナットやボルト	締め付ける ²⁾									X
チェンキャッチャー	点検	X								
	交換								X	
安全情報ラベル	交換								X	

¹⁾ STIHL では、STIHL サービス店の利用をお勧めしています

²⁾ 10 - 20 時間の使用後にチェンソー（出力 3.4 kW 以上）のシリンダーベーススクリューをしっかりと締め直してください。

磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の仕様を遵守して使用すると、本機への過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備および保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容および警告事項に従わないことに起因するすべての損傷については、使用者が責任を負います。これには、特に以下が適用されます：

- スチールが承認していない製品の改造
- 本機への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリを使用
- 使用目的に合わない方法での本機の使用
- スポーツや競技などの催し物で本機を使用
- 損傷したコンポーネントを装備したままで機械を使用したことから生じる派生的損傷

整備作業

「整備と保守」に記載されているすべての作業を、定期的に行う必要があります。使用者がこれらの整備作業を自身で実行しない場合、それらの作業はサービス店に依頼する必要があります。

当社では、整備や修理をスチール認定サービス店だけに依頼されることをお勧めします。スチール販売店では定期的にトレーニングを受け、適切な技術情報の提供を受けています。

これらの作業を実行しないか、不適切に実行した場合、結果として損傷が発生することがあり、これには使用者が責任を負います。特に以下が対象になります：

- 指定された整備周期を守らなかったか、整備が不十分であった（たとえばエアフィルター、燃料フィルター）、または冷却空気経路（エア吸入スリット、シリンダーフィン）の掃除が不十分であったことが原因で生じたエンジンの損傷
- 不適切な保管に起因する腐食損傷およびその他の派生的損傷
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷

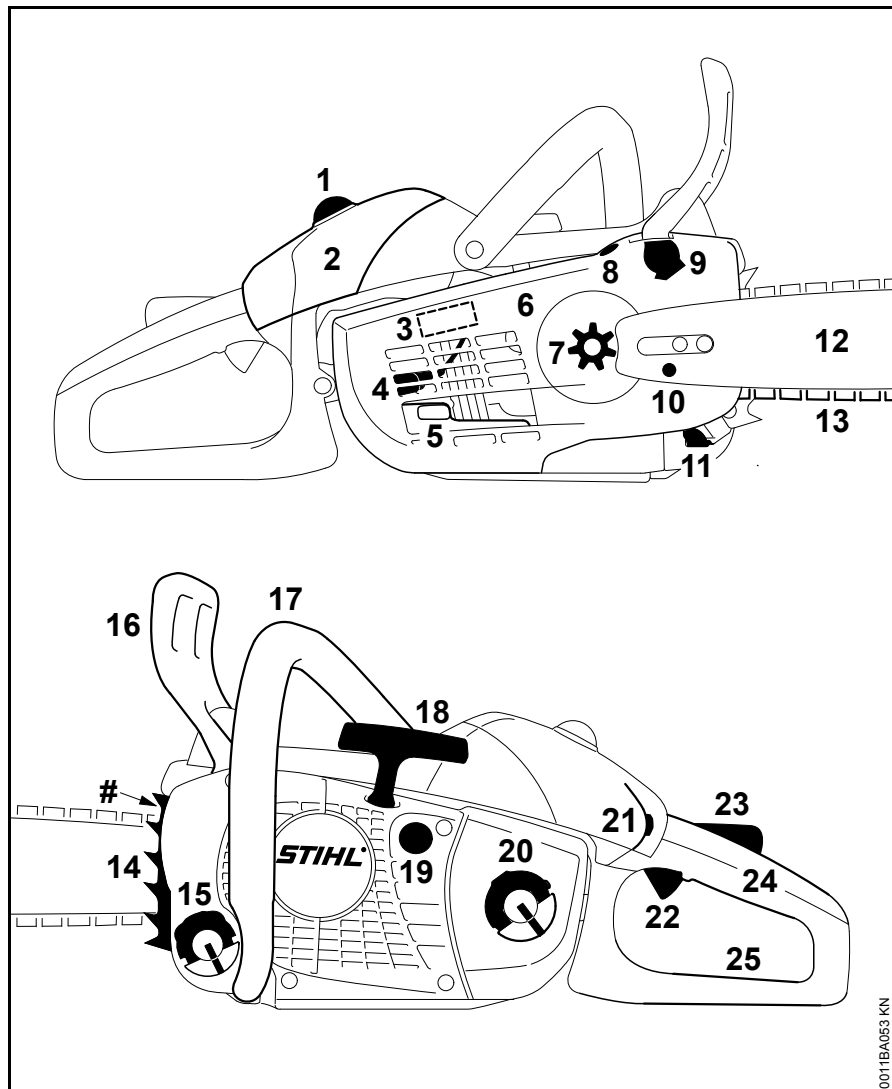
磨耗部品

カットオフソーの部品によっては、規定通りに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- ソーチェン、ガイドバー
- 駆動部品（クラッチ、クラッチドラム、チェン sprocket）
- フィルター（エアフィルター、オイルフィルター、燃料フィルター）
- リワインドスターター

- スパークプラグ
- 防振システムのコンポーネント

主要構成部品



- 1 ツイストロック
 - 2 キャブレターボックスカバー
 - 3 シャッター(冬季および夏季モード)
 - 4 スパークプラグ
 - 5 マフラー
 - 6 チェンスプロケットカバー
 - 7 チェンスプロケット
 - 8 オイル量の調節
 - 9 チェンブレイキ
 - 10 チェンテンションナー
 - 11 チェンキャッチャー
 - 12 ガイドバー
 - 13 オイロマチックチェン
 - 14 バンパースパイク
 - 15 オイルタンクキャップ
 - 16 前ハンドガード
 - 17 前ハンドル(ハンドルバー)
 - 18 スターターグリップ
 - 19 手動燃料ポンプ(機種による)
 - 20 燃料タンクキャップ
 - 21 マスターコントロールレバー
 - 22 スロットルトリガー
 - 23 スロットルトリガーロックアウト
 - 24 後ハンドル
 - 25 後ハンドガード
- # 機械番号

0011BA053 KN

技術仕様

エンジン

単気筒 2 ストロークエンジン

排気量： 35.2 cc

シリンダー径： 40 mm

ピストンストローク： 28 mm

ISO 7293 に準拠した 1.8 kW (2.4 HP)、10,500 rpm 時

アイドル回転数：¹ 3,000 rpm

¹) ISO 11681 に準拠 (+/- 50 rpm)

イグニッションシステム

エレクトロニクマグネトイグニッション

スパークプラグ (抵抗入タイプ)： NGK CMR 6 H

電極ギャップ： 0.5 mm

燃料システム

燃料ポンプ付き全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量： 310 cc (0.31 l)

チェンの潤滑

全自動、回転数制御プランジャー式オイルポンプ。手動オイル吐出量調整機能付き

オイルタンク容量： 220 cc (0.22 l)

重量

乾燥重量、バーとチェンを除く

MS 201 C-M： 4.0 kg

ErgoStart (エルゴスタート) 付き MS 201 C-EM： 4.1 kg

カッティングアタッチメント

実際の切断長は、規定の長さよりも短い場合があります。

ローロマチックガイドバー

バーの長さ (3/8" P ピッチ)： 30、35、40 cm

溝幅： 1.3 mm

カービングガイドバー

バーの長さ (ピッチ 1/4")： 30 cm

溝幅： 1.3 mm

3/8" ピコチェン

ピコマイクロ 3 (63 PM3) 3636 型

ピッチ： 3/8" P (9.32 mm)

ドライブリンクゲージ： 1.3 mm

ピコスーパー (63 PS) 3617 型

ピッチ： 3/8" P (9.32 mm)

ドライブリンクゲージ： 1.3 mm

ピコスーパー 3 (63 PS3) 3616 型

ピッチ： 3/8" P (9.32 mm)

ドライブリンクゲージ： 1.3 mm

ピコデュロ 3 (63 PD3) 3612 型

ピッチ： 3/8" P (9.32 mm)

ドライブリンクゲージ： 1.3 mm

ピコマイクロ (63 PM) 3613 型

ピッチ： 3/8" P (9.32 mm)

ドライブリンクゲージ： 1.3 mm

1/4" チェン

ラビットマイクロスペシャル (13 RMS) 3661 型

ピッチ： 1/4" (6.36 mm)

ドライブリンクゲージ： 1.3 mm

チェンスプロケット

3/8"P (スパー sprocket)、6 枚歯

ISO 11681 に準拠した最大チェンスピード： 26.0 m/s

最大出力時のチェンスピード： 18.6 m/s

1/4" (スパー sprocket)、8 枚歯

ISO 11681 に準拠した最大チェンスピード： 23.6 m/s

最大出力時のチェンスピード： 16.9 m/s


整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることだけです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店にのみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

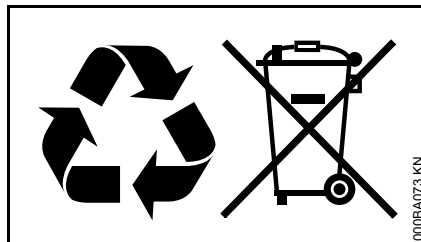
修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL**® ロゴマークおよびスチール部品シンボル マーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

廃棄

国別の廃棄の規則および規制を順守してください。



スチール製品は、家庭用ごみ入れに廃棄しないでください。製品、アクセサリ、包装は、環境に配慮してリサイクルを行うため、認可された廃棄場に持ち込んでください。

廃棄物処理の最新情報については、スチール サービス店へお問い合わせください。

EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Badstr. 115
D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、独占的な責任下で下記の製品が

名称：	チェンソー
メーカー名：	STIHL
シリーズ：	MS 201 C-M MS 201 C-EM

シリーズ番号： 1145

排気量： 35.2 cm³

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU および 2000/14/EC の関連する条項に適合しており、製造の時点で有効であった次の規格のバージョンに準拠して開発および製造されたことを保証いたします：

EN ISO 11681-1、EN 61000-6-1、EN 55012

音響出力レベルは、測定値および確保数値共に、2000/14/EC の付録 V と規格 ISO 9207 に基づいています。

音響出力レベル測定値

MS 201 C-M 112 dB(A)

MS 201 C-EM 112 dB(A)

音響出力レベル保証値

MS 201 C-M 114 dB(A)

MS 201 C-EM 114 dB(A)

EC 型式検査の実施者：

日本語

DPLF
Deutsche Prüf- und Zertifizierungsstelle
für Land- und Forsttechnik GbR
(NB 0363)
Spremberger Straße 1
D-64823 Groß-Umstadt

証明書番号：

K-EG -2010/5599

技術資料の保管場所：

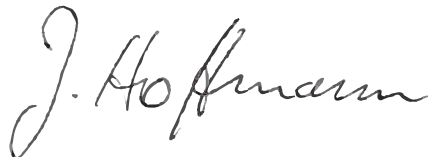
ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体
に表示されています。

Waiblingenにて発行、2020年02月03
日

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Dr. Jürgen Hoffmann

Head of Product Data, Regulations and
Licensing (製品データ・規制・認可部
長)



0458-598-4321-B

japanisch



www.stihl.com



0458-598-4321-B